

# 報告会参加にあたってのお願い



マイクOFF設定



質問事項はチャットに投稿してください



カメラOFF設定



途中入退室可能



# なとり共創ラボ 成果報告会



# 本日のスケジュール

- 
1. 市長あいさつ ~14:05
  2. 事業概要説明 ~14:10
  3. 活動成果報告  
Aチームの発表 ~14:30  
質疑応答 ~14:40  
Bチームの発表 ~15:00  
質疑応答 ~15:10  
Cチームの発表 ~15:30  
質疑応答 ~15:40
  4. 市長からのコメント ~15:45
  5. 事務連絡・閉会あいさつ ~15:50



# 市長あいさつ



# 事業概要説明

## なとり共創ラボとは

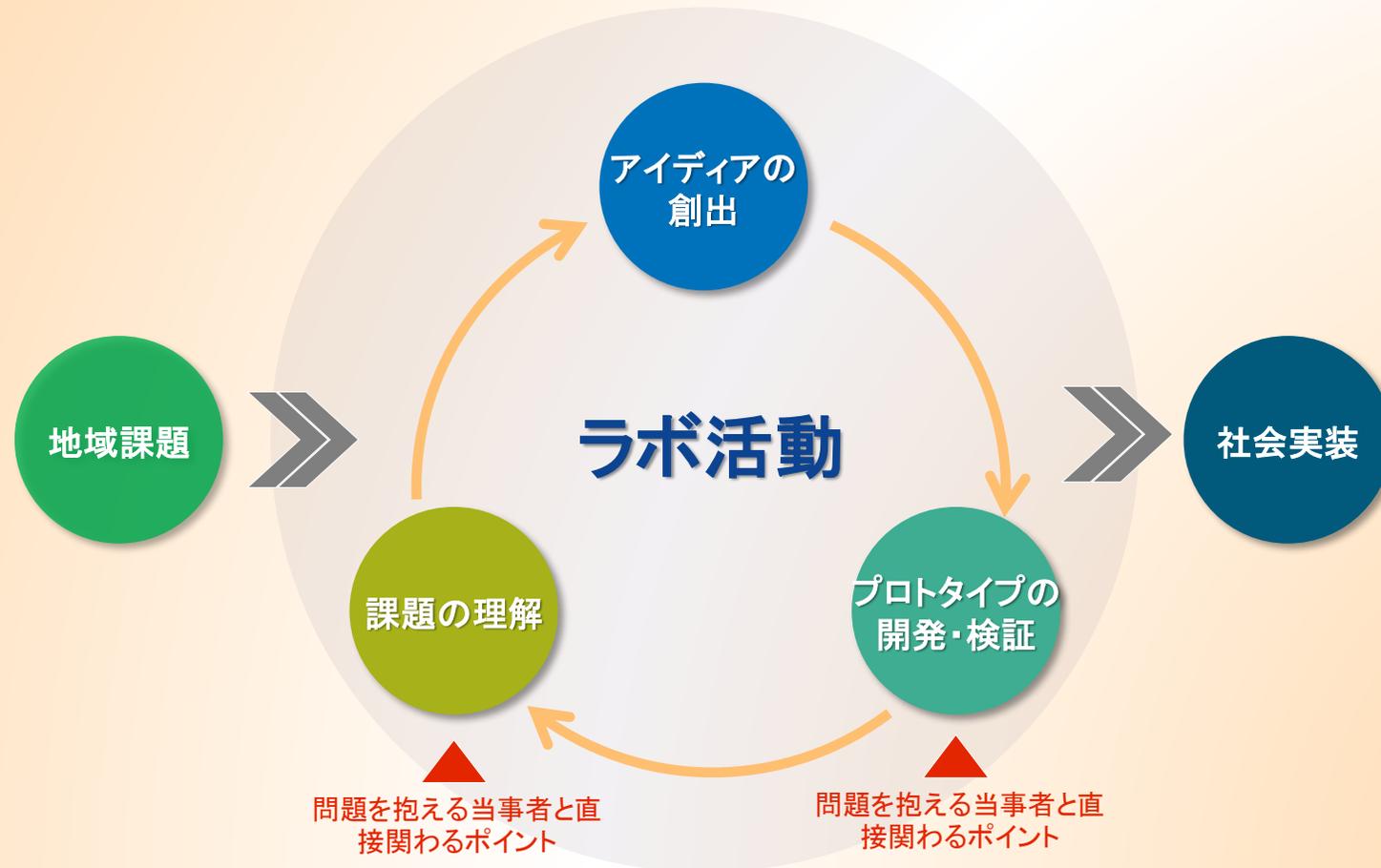
なとり共創ラボは、名取市に関わる学生や社会人、企業の皆様が主役となって、地域の未来を創る活動です。

地域のよいところをさらに伸ばしたり、困ったことを解決したりするためのアイデアを考え、実現を目指して活動してきました。



# ラボの運営

ラボでは、地域の課題を深く理解したうえで、解決策となるアイデアを創出し、そのアイデアの有効性を検証しながら、社会実装の方法を検討しました。



# なとり共創ラボの活動経緯

全7回のラボ活動を通じて、ラボの活動テーマとなるまちの課題の洗い出し・チームづくりから、解決策のアイデアを実現するための計画づくりまで取組んできました。

#	開催日時		内容
第1回	10月14日(月)	14:00-16:00	ラボのテーマ案の洗い出し
第2回	11月8日(金)	19:00-21:00	チームビルディング・調査事項の洗い出し
第3回	12月1日(日)	14:00-16:00	調査事項及び調査方法、解決策のアイデア出し
第4回	12月20日(金)	18:30-20:30	調査結果の整理、追加調査の要否・内容の検討
第5回	1月17日(金)	19:00-21:00	課題の整理、解決策のブラッシュアップ
第6回	2月7日(金)	19:00-21:00	社会実装方法の検討
第7回	2月28日(金)	19:00-21:00	事業構想のとりまとめ

# ラボの3つのチーム

なとり共創ラボでは、解決したい問題ごとに3つのチームをつかって、問題の分析や解決策の検討を進めました。

Aチーム

新たな交流の場・機会の創出



所属や世代の違う人が集まったり交流したりする場がない・・・

Bチーム

まちの魅力・情報発信



魅力的な場所やおいしいお店があるのに知られていない・・・

Cチーム

移動改革による子育て支援



車が必要な地域のため、子どもの送り迎えの負担が大きい・・・

解決したい問題



# Aチームの発表

# 問題意識

- 「新たな交流の場を作りたい」というテーマへの共感からチームを組成。それぞれ「交流」に対する思い、まちの課題についての認識はばらばらの状態からスタートしました。

## 当初メンバーから提起されたまちの課題

- 高齢者が孤独・孤立に陥りやすい状態になっている
- 災害公営住宅における孤独・孤立状態を解消したい
- 外国人定住者（長期滞在者）が地域内で孤立している状態を解消したい
- 若者が集まれる場所が限定され、結果的に仙台に人が流れている状態を解消したい。



# 問題の分析・課題の設定 (1/2)

- 様々な対象者に話を聞く中で、それぞれ今ある人間関係から離れて、新しく人と話すきっかけ、刺激を受ける機会がないことに“モヤモヤしている”人も多く見られること等、ニーズを確認しながら検討を進めてきました。

## インタビューで得られた情報



大学生

大学の知人・友人など、既存の人間関係では相手にどう思われるかが気になり話せないことがある。コロナでサークル等の集まりも減少し、知らない人と話す場がない。



外国人

同じ職場のコミュニティ以外で知人はほとんどいない。飲み屋で見かけて、話しかける程度。



高齢者  
(町内会長)

復興住宅等で、忘年会や防災訓練などの町内会活動を行ってきたが、コロナで参加者が減少。災害ボランティア団体等がサロンを運営しているが、参加者は固定化。

新しい住民（シングルマザー等）も入っているがアプローチできていない

## アンケート等で得られた内容

『知らない人と気軽に交流できるような場があれば、参加したいか』  
アンケート・インタビューを実施。

- アンケート・インタビューを行った40人中  
「交流の場があれば、参加したい」 **26人 (65%)**

【その他の主な知見】

- 参加したい理由としては、以下のようなものが挙げられた
  - 高齢者：時間を持て余していて話し相手が欲しい
  - 学生：色々な人と話をすると、就活の時などに役に立つかも。同じ趣味の人等、話の合う人が欲しい
  - 社会人：若い世代からいまの流行や新しい価値観等の刺激を受けたい 等
- 参加に消極的な人の例：仕事やアルバイト等で忙しい社会人、今ある人間関係で満足している人、子どもから目が離せない子育て世代 等

# 問題の分析・課題の設定(2/2)

- 様々な人からニーズを聞き、自分たちの想いを確認する中で、**テーマを「知らない人と（高齢者、子ども、外国人等）と立場を気にせず、気軽に話ができる場をつくる」**に設定しました。

## 自分たち（チームメンバー）の想いを振り返って確認（ブレストで出た主な意見）

コンセプト/ やりたいこと	<ul style="list-style-type: none"><li>✓ だれでも、好きに過ごせるような場をつくりたい。</li><li>✓ 知らない人、これまで会ったことがない人が、どんなことをしているか聞いて刺激を受けたい。知らない人と話をする事それ自体を楽しみたい。「そこに行くとおもしろい人に会える場所」。</li></ul>
そのために どんな空間を 作るか	<ul style="list-style-type: none"><li>✓ 話ができるカフェのような雰囲気の良い、長居ができる空間が作れるといい</li><li>✓ 学校、昼の居酒屋等、なかなか入る機会のない場所だと新鮮な体験になるのではないか。毎回場所を変えても新鮮でいい。</li><li>✓ 名取駅の近くで焚火イベントを実施した団体もあった。野外、公園等のオープンスペースでやってもいいのではないか</li></ul>
そこで、どんな ことをしてみたいか？	<ul style="list-style-type: none"><li>✓ お茶飲み等、敷居の低い活動がいい。おいしいもの、軽食、飲み物は必須。</li><li>✓ 話のテーマは何かないと会話しにくい。最初はみんなが共通項を持ちやすいテーマで話をしてみるのよいいのではないか。</li><li>✓ 普段関わることが少ない、色々な職業の人にも話が聞けると、好奇心がくすぐられる。</li><li>✓ 雑談や子育て世代向けのスペースや、障害のある人、外国人にも配慮した空間であるといい。色々な価値観の人が集まるので、合わない人がいたときやうまく参加できない人がいたときにフォローするスタッフも必要かもしれない</li></ul>

# 解決策の検討

- 具体的にどのような交流の場を作るのが良いか、議論し、「毎回テーマを設定し、知らない人同士の会話を促すイベント」を実施することとしました。

課題	<ul style="list-style-type: none"><li>• 学校・職場の知り合いはいるが、<b>既存の人間関係では、周りの目を気にして話せないことがある。</b></li><li>• 家庭、学校、職場以外に、人と楽しく会話する機会、知り合う機会がない。</li></ul>
実現したいこと	<ul style="list-style-type: none"><li>• 知らない人と（高齢者、子ども、外国人等）と立場を気にせず、気軽に話ができる場をつくりたい。</li><li>• 上記のような場を作って、参加した人にまた参加したい、集まりたいと思ってもらいたい。</li></ul>
<b>イメージを具体化</b>	
開催場所・頻度	<ul style="list-style-type: none"><li>• 雰囲気の良いカフェ、飲食店、公園等のオープンスペース（例：喫茶店、ユリイカ、ビール園跡地、日中の居酒屋、かわまちテラス、トレイルセンター等）</li><li>• 月に1～2回程度の間隔で開催（※参加者の状況を見ながら開催日を増やすことも検討）</li></ul>
どんなことをするか	<ul style="list-style-type: none"><li>• 毎回、好きな話題・テーマを設けて、話すきっかけを作る（“ちょいレアさん”を連れてくる等）<ul style="list-style-type: none"><li>➢ “ちょいレアさん”の例：ラジオパーソナリティ、なとりのレスラー、エッグおじさん、NPOで活動している人、弾き語りをしている人 等</li></ul></li></ul>
その他・居心地がよくなる工夫	<ul style="list-style-type: none"><li>• カフェ、軽食等を準備して、参加した人が落ち着いた話ができる空間を作る</li><li>• 知らない人同士の話を仲介・仲裁する役割、高齢、障害、子ども等立場がちがいによりうまく参加できていない人が参加できるようフォローできるスタッフがいるとよいファシリテーターを設置</li></ul>

# 解決策の検討

- 「知らない人同士の交流を促す」ための企画内容を具体化し、以下の4つの案を検討しました。

No.	各イベントの企画案	企画案に対するコメント
1	<b>トーク企画</b> 「結婚 vs 独身 どっちがいいでしょう？」	<ul style="list-style-type: none"><li>決着がつかないけど、それぞれの意見を出した人の着眼点・価値観を知れて面白そう</li><li>「賃貸vs持ち家」等、他のテーマでシリーズ化できそう</li></ul>
2	<b>トーク企画</b> 「名取に行きついたルーツ、名取とその人のつながりを探る 私と名取」	<ul style="list-style-type: none"><li>名取に来た理由理由をどんどん深ぼってその人のルーツを探っていくと、それぞれのストーリーが見えるのではないかな</li><li>名取に住んでいる外国人の人も「なぜ名取に？」「名取で何をしてどんな生活をしているか？」が気になる。</li></ul>
3	<b>まち歩き企画</b> 「まちの気になるところ、昔の痕跡を探してシェアしよう！ なとり ふれあい 街歩き」	<ul style="list-style-type: none"><li>まち歩きをして気になるところを写真でシェアして、それがなぜそこにあるか等を深掘すると面白そう</li><li>トマソン（取り壊された建物の名残）を見つけると、まちの成り立ちがわかって面白いのではないかな。</li></ul>
4	<b>たべもの企画</b> 「ちょっとした料理をみんなで作って食べよう！ 地域食堂」	<ul style="list-style-type: none"><li>みんなで何かを食べる企画はやりたい</li><li>持ち寄りだと危険もあるので、みんなで作って食べるのが良いのではないかな。（※市内に先行企画あり）</li><li>「酒のあて」を作って飲むでもいいかも。</li></ul>

# 今後の活動方針

- 前掲の企画案から、お試して「まち歩き企画」を開催します。企画の概要は以下の通りです。

お試し テーマ	まち歩き企画 「なとり ふれあい 街歩き」
参加者	<ul style="list-style-type: none"><li>人数規模: 10名程度 (※名取市民、名取市に通勤・通学する等、なとりに縁がある人)</li><li>募集方法: なとポタ配信、大学掲示板等 (応募フォームから申し込み受付、抽選)</li></ul>
場所	<ul style="list-style-type: none"><li>館腰駅周辺 (※古いお寺や遺跡などが残り、ネパールからの移住者も多い)</li><li>スタート拠点: 館腰公民館、近隣の寺社 等 (会場調整中)</li></ul>
開催日時	5月下旬の土日いずれか 10:00~12:30
実施内容	<ul style="list-style-type: none"><li>地域に詳しい方 (近隣寺社の方等) をゲストと一緒にまち歩き。各自気になったものを写真撮影し、最後にみんなで共有しながら交流。</li></ul> <p>【タイムスケジュール(案)】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>9:45~ : 集合</li><li>10:00~ : 企画趣旨、まち歩きのルート、写真の共有方法の説明</li><li>10:20~ : まち歩き (80分程度)</li><li>11:40~ : 撮影した写真、気になった理由・ポイントを各自共有~交流</li><li>12:30 : 終了</li></ul>

なとり共創ラボ Aチーム presents

募集チラシ(作成中)

## なとり ふれあい 街歩き

館腰は、かつては宿場町として栄え、館腰神社などの文化財が残る歴史ある街です。地元ガイドと一緒に街を歩いて歴史を感じ、その日に会った仲間と館腰の歴史と景色についておしゃべりを楽しみませんか？



写真: 名取市観光物産協会 (https://www.natori-net.or.jp/history/monuments/)

イラスト: 117イラストAC

<ul style="list-style-type: none"><li>■ <b>開催日時</b>: 5月X日 (土日のいずれか) 10:00~12:30</li><li>■ <b>開催地</b>: 館腰周辺 ○○○ 集合</li><li>■ <b>募集定員</b>: 名取にゆかりのある方 通勤通学で名取を通る方 10名程度</li><li>■ <b>参加費</b>: 未定</li><li>■ <b>応募方法</b>: 以下のQRコード・URLから5月XX日までに お申込みください。 ※定員オーバーの場合は抽選となります。 あらかじめご了承ください。</li></ul>	集合場所の地図 (※準備中)
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------

QR (※準備中)      応募フォームURL (※準備中)

# 活動スケジュール（案）

実施事項・担当		スケジュール											
大項目	中項目	X-2月				X-1月				X月			
		1 <sup>st</sup> week	2 <sup>nd</sup> week	3 <sup>rd</sup> week	4 <sup>th</sup> week	1 <sup>st</sup> week	2 <sup>nd</sup> week	3 <sup>rd</sup> week	4 <sup>th</sup> week	1 <sup>st</sup> week	2 <sup>nd</sup> week	3 <sup>rd</sup> week	4 <sup>th</sup> week
事前準備	企画内容検討	企画まとめ											
	講師調整	講師打診・調整		講師へ会場、日程の打診・調整		まち歩きルート等の打ち合わせ・調整							
	会場確保					会場予約（必要なら）							
	広報・参加者募集	募集方法検討 (なとぼた、ロコミ、大学掲示板)		出稿方法確認 チラシ/ビジュアル作成		原稿、応募フォーム作成、募集手続き		参加者募集 (※開催2週間前目安)		抽選・結果連絡			
	当日の進行、まち歩きルート決め					まち歩きルート、タイムスケジュール等を検討		会場レイアウト、進行役割分担決め		必要なら資料作成			
	備品の確保 ・資料 ・プロジェクター、音響、椅子等 ・写真共有方法の確認 ・御茶菓子類、飲み物類 等					必要物品、予算洗い出し、参加費検討		写真共有方法の検討		写真共有方法の資料作成			
						プロジェクター等準備物確定、調達							
												御茶菓子等	
実施												★ 実施日 (xx/xx)	
企画・進捗会議			▲ 今後の準備等確認	▲ 打ち合わせ								▲ 振り返り17 回目の企画会議	

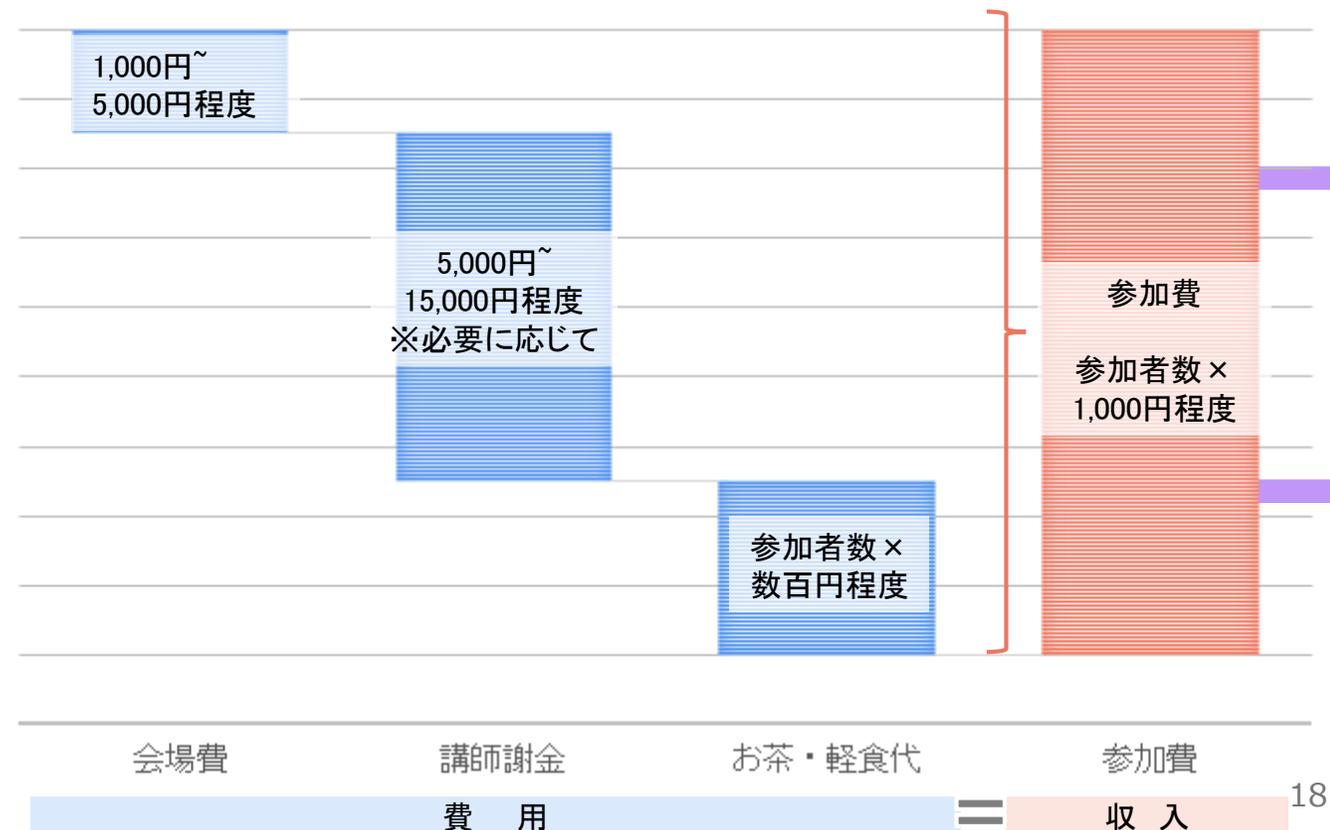
# 想定される便益及び費用

- 想定される費用は、会場費やお茶、軽食代、必要に応じて講師・ゲストへの謝金の支払いが発生する想定。それほど大きな金額にはならないため、参加者につき500～1000円程度の参加費で費用を賄うことを想定。

## 期待される便益

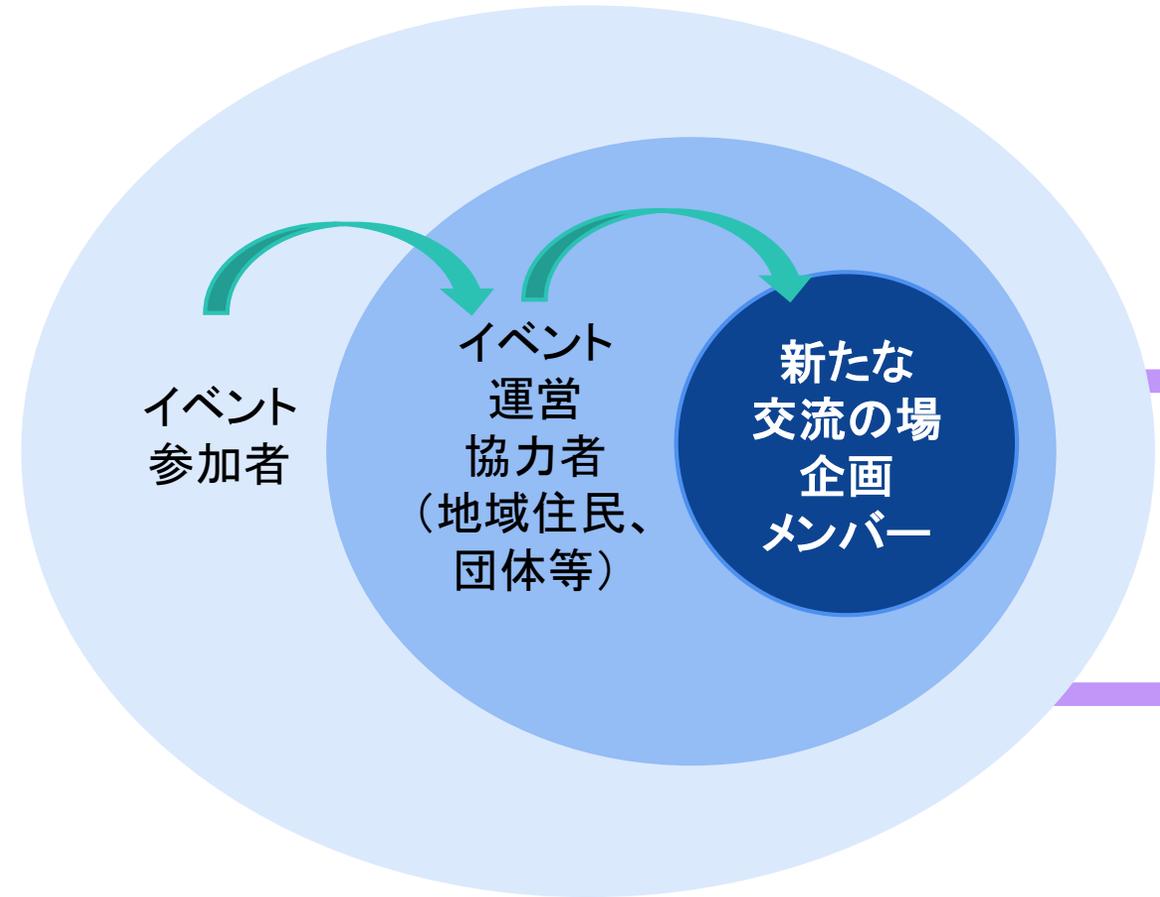
- 既存のコミュニティと異なる、新しい人と人とのつながりを作ることができ、孤独感・孤立感、ストレスの軽減につながる。
- 様々なバックグラウンドを持つ人々との交流することで、刺激を受け、価値観を広げることができる。（就活、仕事の役にも立つかも）
- 名取のまちやひとの魅力を再発見することにつながる。
- 参加者の環が広がることで、新しい地域課題、地域活動につながる可能性がある。

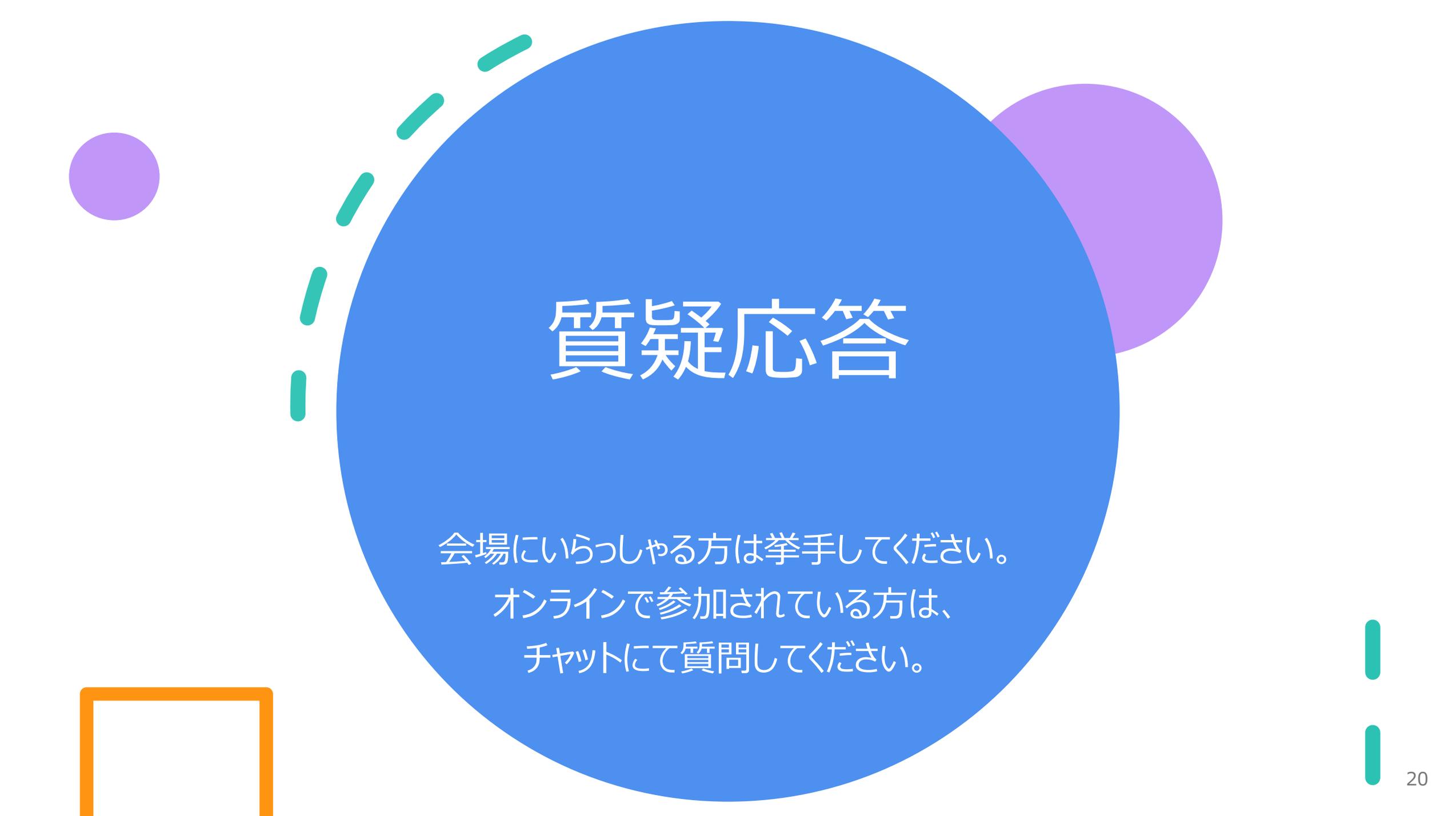
## 想定される費用



# 今後のラボの推進体制

- 最初のお試し実施は、共創ラボのメンバーとイベントに協力いただくゲストの方が中心になりますが、今後は、**イベント参加者の方からも、企画メンバーを募って、楽しみながら活動を継続していきたいと考えています。**
- “あんなことがやりたい”、“こんな話が聞けたら面白いのでは？”と企画する会議自体も、「新しい交流の場の1つ」になると考えています。
- もし今日の発表を聞いて、「面白そう」、「自分も混ざりたい」、「いろいろな人と話をしてみたい」と思った方、**この活動に参加してみたいと思った方は、ぜひ名取市DX推進室までご連絡ください。**





# 質疑応答

会場にいらっしゃる方は挙手してください。  
オンラインで参加されている方は、  
チャットにて質問してください。



# Bチームの発表

# 問題意識

名取市に居住しているメンバーの中で、市内にも足を運ぶ価値のある観光地や飲食店があるにも関わらず、それを知ってもらうきっかけがないことがもったいない、という問題意識が挙がりました。

仙台空港を利用した方が目的地までの道のり前後で名取市に立ち寄ってもらえていない（そのまま帰ってしまう）

どんな媒体を見れば、観光施設や美味しい飲食店が掲載されているのかわからない・・・

市内観光施設間のアクセスが不便

まちに人や車通りはあっても目的地への道のりでしかなく、まちを楽しんでもらえない

名取市民であっても市内の美味しいお店や珍しいお店を知らないし、知るきっかけすらない

# 問題の分析

観光資源に乏しくそもそも観光したいというニーズが大きいこと、名取市民でも市内のお店やスポットを知らないことを踏まえて、地元の人だからこそ知る“ディープな情報”が名取市民向けに整理されていないことを問題として設定しました。

## 問題のディスカッション

## ディスカッションの整理結果

誰に向けた情報が不足しているか

名取に家族や友人がいるといった人のつながり以外で、「名取に旅行をしにいこう」と思わせられるだけのコンテンツはない

名取市民であっても休日は仙台で遊ぶことが多い。自分に合った場所があれば交通費もかからない市内で過ごしたい

観光客は言わずもがな、地元に住んでいても、地域の店を知らない。まずは地元の人をターゲットにした情報発信をした方が成果が見えやすいのではないか

名取市内には仙台空港があるが、ラボの最初の段階で仙台空港から仙台に出ようとする人を引き付けるだけの情報発信するのは、ハードルが高い

観光客が非常に少ないこと、名取市民ですら地域のことを知らないことを踏まえて、名取市民向け情報発信が不足していることを問題として定めた

どのような情報が不足しているか

地元民しか知らないような情報を発信できるとよいのではないか。例えば、高専近くには高専生しか利用しないような店があるが、その情報をマッピングして発信すると高専生は喜ぶはず

名取市内の飲食店や観光スポットは民間のグルメメディアやキュレーションサイトに掲載されているが、誰が紹介しているか、自分に合っているか、分からないためなかなか使うきっかけにならない

人づて以外に、地元の人だからこそわかる“ディープな情報”を知る機会がないため、名取の魅力が伝わりきらないと考えた（例：仙台高専生が知る高コスパの飲食店）

# 課題の設定

行政がつくる地図では公平性が重視されて総花的になる、民間のグルメサイトではディープな情報が得られない、という現状を踏まえて、本ラボ活動では地元の人がオススメする飲食店を独自の切り口でまとめたオリジナルマップを作成することにしました。

## 取組の方向性に関するディスカッション

名取市民が知っている名取市内の飲食店は、近所やいきつけのお店など非常に限定的

食の好み、店のニーズはその人ごと、そのときごとに違うので、全ての人が満足する飲食店は存在しない

行政や商工会議所が作成する「市内飲食店マップ」は、公平性の担保も有り、その紹介は網羅的に基礎情報を羅列するに留まってしまふ

「今の気分」に沿う近くのお店を紹介することはできないか？

実際にお店を利用して人からの推薦に基づいて、市民がオススメのお店を紹介し合う仕組みを作れないか？

## ディスカッションの整理結果

名取の本当の楽しみ方を味わえるように地元の人がオススメするスポットをまとめたオリジナルマップを作成することにした

- ◆ 主に**名取市になじみの薄い人向け**に、名取市民が実際に行く”**鉄板**”の**飲食店**やここでしか食べられないお店をまとめたマップ
- ◆ 主に**名取市民向け**に、**行ったことが無いなら冒険してみてください！**と**オススメ**するお店をまとめたマップ

# 解決策の検討

24年度中にオリジナルマップの試作版をつくることを目標に、市民オススの飲食店を調査（①）し、それを誰でも扱いやすいツールを選んだうえで（②）、ラボメンバーで役割分担しながら作成作業（③）を進めました。

## ①市民オススの飲食店の調査

- マップに掲載する飲食店を集めるために、ヒアリングやアンケート経由で名取市民の方に飲食店をオススしてもらった
- 一般的に普及しているグルメサイトと差別化するために、“どのような人”がオススしている店か、という切り口でマップ上の飲食店を分類できるよう、以下の項目で調査を実施した

### 【調査項目】

- ✓ インタビューした人の属性(性別、職業、年齢)
- ✓ オススしたい店
- ✓ オススする理由
- ✓ 自分が利用するシーン(時間帯や、利用目的)
- ✓ 店への交通手段

## ②マップづくりのためのツール検討

- マップは一度つくって完成するものではなく、更新し続けることで価値のあるものになる
- そのことを踏まえて、誰でも簡単に操作ができ、利用にあたっての費用も発生しないGoogle Mymap(Google Mapを自由に編集できるサービス)を採用することにした
- また、ゆくゆくはマップ情報だけでなく、動画コンテンツや記事コンテンツも発信していくために、Google sites(プログラムを書くことなくホームページを作成するツール)を利用して、マップを掲載するホームページを作成することにした

## ③試作版マップの作成

- 24年度の活動期間中に、試作版のオリジナルマップ、マップを掲載するサイトを立ち上げることを目標に活動した
- チーム内で、ホームページ作成担当、マップに情報を整理する担当、ホームページのデザインや紹介文を考える担当など、役割分担をして、試作版マップ・ホームページの作成を進めた



# 補足資料：①市民オススメの飲食店の調査

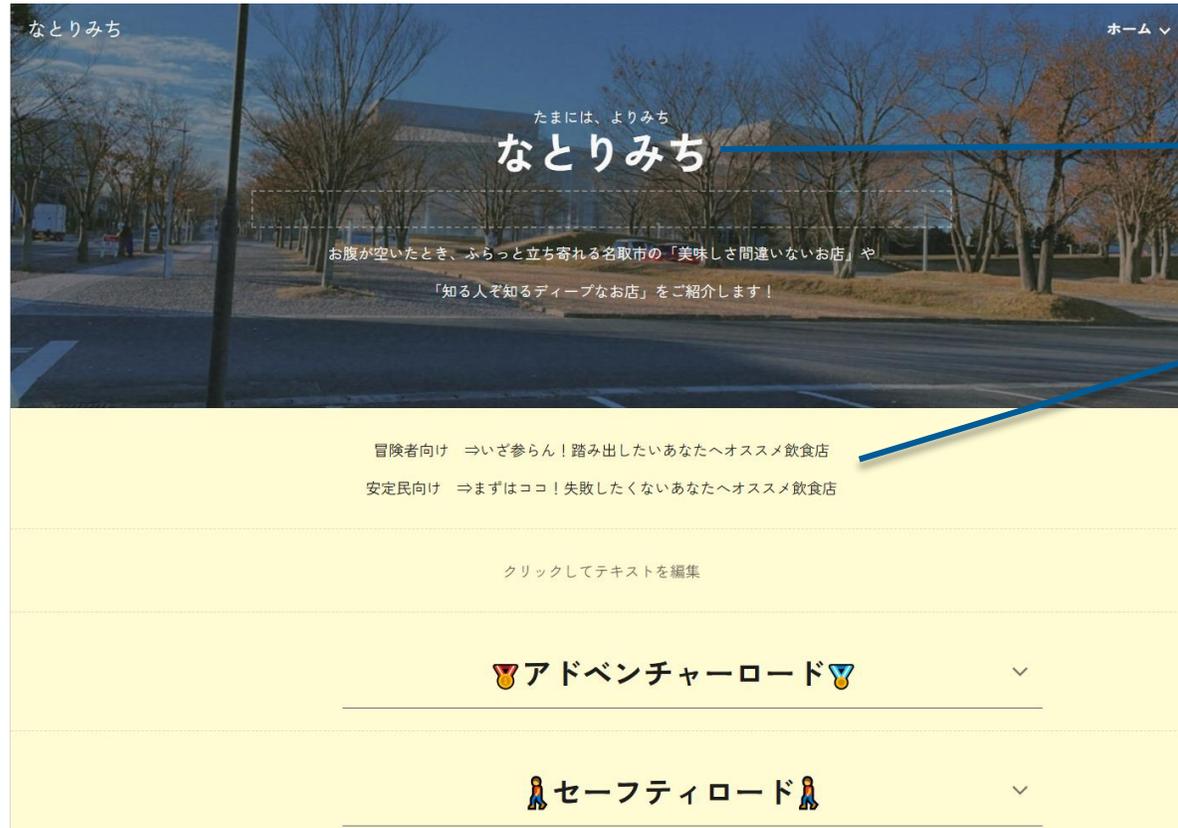
ラボメンバーの知り合い経由でのヒアリングや、ナトぽた等を利用したアンケートを通じて、市民オススメの飲食店を調査した結果、およそ90件の飲食店を収集することができました。（皆様、ご協力いただきありがとうございます！）

## 地元住民がおススメする飲食店の調査結果（一部抜粋）

ヒアリングした人の属性			おススメしたい店		利用シーン			
年代	職業	性別	店名	おススメする理由	利用目的	誰といくか	おススメの時間帯	
	60	タクシー運転手	男	大森食堂	抜群のボリューム。コスパがいい	普段使いの食事	一人	昼食時
	50	会社員	女	カフェモーツァルトユリイカ	図書館併設の喫茶店 駅に近い 長居しやすい雰囲気	普段使いの食事	一人	昼食時
	50	会社員	男	そば慶	普段使いにも、顧客を連れて行っても恥ずかしくない	普段使い、商談	一人、顧客と	昼食時
	50	会社員	女	梵天食堂	ランチがコスパがいい。豚丼がおすすめ	普段使い	一人、家族	昼食時
	50	会社員	男	カフェマルタ	しらすプレートは他では食べられない料理	遠方の人を驚か	家族、友人と	昼食時
19才	学生	男性	星さん家のハンバーグ	店員さんが明るい、ハンバーグがおいしい	昼ごはん	2人(友人)	未間	
19才	学生	男性	昭和屋(ラーメン)	追加トッピングのチャーシューが多い	昼ごはん	3~6人(友人)	昼	
19才	学生	男性	カレー&靴Dining 空とぶぞう	ナンが食べれる、カレー屋が少ないから珍しさがあ	昼ごはん	3人(友人)	昼	
19才	学生	男性	成りと(ラーメン)	背脂がおいしい、もやしがストップ制、具材の量カ	昼ごはん	3~6人(友人)	昼	
19才	学生	男性	麺舞 杉のや	ラーメンとしてクオリティが高い	昼ごはん	3~6人(友人)	昼	
19才	学生	男性	ニラなんばんらーめん こうしゅう 名取西店	ニラが辛く取り放題、チャーシューが大きい	夜ごはん	2人(友人)	いつでも	
19才	学生	男性	和食飛賀屋(名取イオン)	海鮮系が強く、特に鯛茶漬けがおいしい	昼ごはん	3, 4人(友人)	昼	
19才	学生	男性	麺処 花の木	チャーハンがおいしい	昼ごはん	2人(友人)	昼	
19才	学生	男性	カフェモーツァルトユリイカ	ラザニアとトッピングのパンの組み合わせが良い	昼ごはん	4人(友人)	昼	
19才	学生	男性	田よし(もんじゃ)	お好み焼きの種類が豊富、もんじゃが焼ける	昼ごはん	4人(友人)	昼	
19才	学生	男性	潮の音(しおのね)	塩ラーメンの細い麺と数種類の具材	昼ごはん	2人(友人)	午前11時頃(人気)	
19才	学生	男性	ホワイトギョーザ サガノ家	独自の形状をした餃子、個々のボリュームが大きく	昼ごはん	2~5人(友人)	午前11時頃(人気)	
19才	学生	男性	武龍	非常にリーズナブルな、昔ながらの大食堂	昼ごはん	3人(友人)	昼	
19才	学生	男性	味かん	安いうえに量が多くクオリティが高い。ラーメンコ	昼ごはん	2人(友人)	昼(PM14:00で閉)	
19才	学生	男性	今野精肉店	コロッケがおいしい	昼ごはん	1人(友人)	昼	
10代	学生	男性	自販機神社	餃子やラーメン、もつ煮など様々な食べ物・飲み物	仙台高専からの	2~3人(友人)	昼	
40代	会社員	男性	Cafe食堂 Laugh	内装がおしゃれなカフェレストラン。昼はオムハヤ	昼・夜	1人から大人数	昼・夜	
50代	会社員	男性						

# 補足資料：③試作版マップの作成 1/2

市民オススの飲食店を「冒険者向け」と「安定志向向け」に分けて紹介するサイト“なとりみち”の試作版を作成しました。



## ◆ サイト名

参加者が挙げた10個の候補の中から、名取でよりみちを楽しんでもらいたい、という思いを含めた「なとりみち」を採用することにした

## ◆ サイト構成

インデックスのページから冒険者向けの「アドベンチャーロード」・安定志向向けの「セーフティロード」用のマップに遷移できるようにする

## ◆ サイトの作成体制

- 使用ツール：Google sites（Googleアカウントをもつ人同士で共同編集可能なWEBページ作成ツール）
- 分担
  - キーワード検討：鈴木さん
  - 文章作成：菅原さん
  - サイトの枠組み作成：本郷さん
  - マップ作成：横田さん

# 補足資料：③試作版マップの作成 2/2

なとりみちには、市民から紹介してもらった飲食店をプロットした地図を掲載中。掲載された飲食店をどのような人がオススメするお店なのか、という軸で分類することで、自分の“今の気分”に近いお店を選択することができます。

## ◆ 検索用レイヤー

レイヤーを切り替えることで、検索したいジャンルのお店にアクセスしやすくする

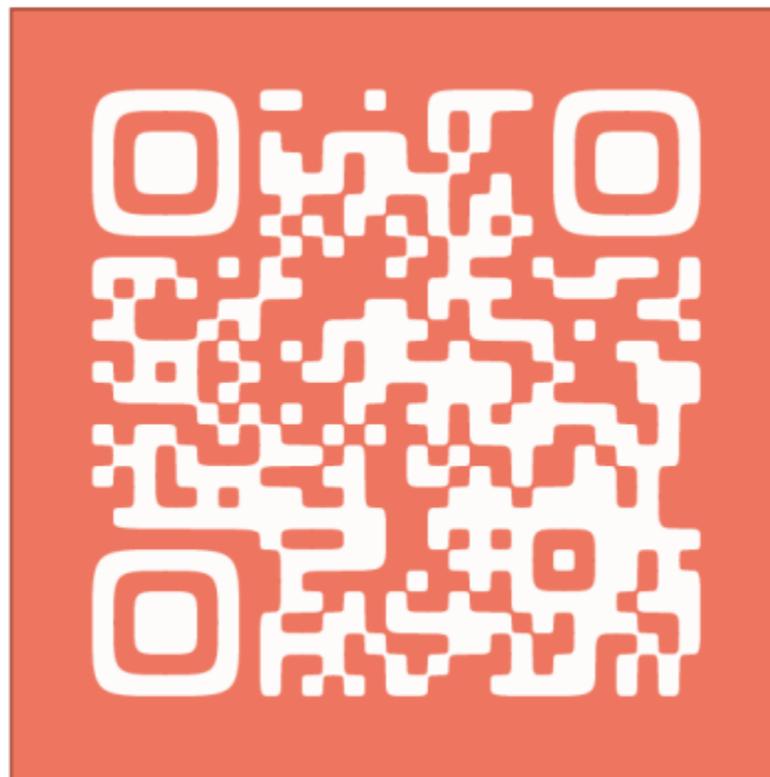
## ◆ 検索軸

食ブログなどのグルメサイトと差別化するために“どのような人が紹介した店か”という軸で類別する



# 補足資料：なとりみちのご紹介

お手元のスマートフォンで読み込んでみてください。



# 想定される便益及び費用

「なとりみち」サイトを市内外に広報周知及び今後のサイト管理運営していくうえで、想定される便益及び費用は次のとおりです。

※なとり共創ラボメンバーの管理運営負担を可能な限り低減する運営手法が前提

## ●パターン1

閲覧者等本サイトの利用者が店舗情報等自由に書き込みできるフリーサイトで運営していく場合

便益:利用者により、サイト上の店舗等が随時アップデートされるので最新情報が更新されやすい。

費用:広告宣伝費(チラシデザイン・印刷費等)0~10万円 ※市広報紙等掲載も検討

※サイトを維持管理するための人件費や運営費用がかからない。

## ●パターン2

市公式HP掲載等により本サイトを運営していく場合

便益①:市でサイト運営するため、店舗情報等誹謗中傷などのネット荒らし対策に過敏に対応できる。

便益②:市で管理運営しているHPのため、掲載店舗も安心して自店舗情報を掲載できる。

費用:広告宣伝費(チラシデザイン・印刷費等)10万円、HP管理費 2万円/月、職員人件費 など

※市広報紙等掲載も検討

# 今後の活動方針

活動全体を逼迫する可能性の高いグルメマップの運用のスリム化とマップの発信を最優先のアジェンダとして検討したうえで、マップのブラッシュアップや新たなマップ作成に着手する、という手順を進めることになりました。

カテゴリ	メンバーから挙げた意見	意見の総括
試作版マップのブラッシュアップの方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>掲載されているお店が若者～中年の男性向けのものに偏っているように感じる。もっと女性やシニアの意見を収集できるように、オススメのお店の集め方を工夫したい</li> <li>地域によって紹介されているお店の数の濃淡が大きい</li> <li>位置情報だけでなく、店や周遊ルートを紹介する動画やVRコンテンツを設けたい</li> </ul>	<p>次年度の活動は、<b>マップの運用体制検討・試作版マップの発信を最優先のアジェンダ</b>としつつ、その取組を通じて得た余力とマップを見た人からの意見を踏まえて、ブラッシュアップ・新マップ作成を進めることになった。（経緯は以下のとおり）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>マップの管理・更新の負荷軽減は特優先度の高い課題。今年度は、初年度ということもあってマップ作りだけに注力できたが、取組を拡大する次年度はより運営のスリム化が求められる。</li> <li>マップのブラッシュアップ、新たなマップの作成については、試作版マップを見てくれた人の意見を踏まえて決めていくのがよい。意見を多くの人から募るためにも、次年度はマップの発信の段階からスタートしたい。</li> </ul>
管理・更新の負荷軽減	<ul style="list-style-type: none"> <li>現状のマップはある種の“パワープレイ”で成り立っている。今後、この取組を継続的なものにするうえで、より手間をかけずにオススメの店を集められる仕組みをつくりたい</li> <li>管理人がいなくとも店舗の情報が更新される状態をつくりたい。飲食店という性質上、オススメの店を増やすだけでなく、閉業することも考えられる。そのような変化を管理人が労力をかけずに反映できる仕組みを取り入れたい</li> <li>仙台高専の学生有志にマップの管理を引き渡す等、運営のスリム化を検討したい</li> </ul>	
マップの発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>マップに興味をもった人が他の人に教える、という連鎖を生むことがマップの周知に繋がる。そのためにはマップのファンをつくることが重要であり、ファンをつくるうえで以下の取組が必要 <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 閲覧者が編集者になれる仕組み</li> <li>➢ サイト内でコメントできる仕組み</li> </ul> </li> <li>広報誌への掲載、人の行き来が激しいスポットへのマップ掲載等の発信をしたい</li> </ul>	
新たなマップの作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>キッチンカーや焼き芋屋さんが出没した場所をマーキングする機能をつけることで、他のグルメサイトでは扱っていないローカルかつ生の情報を提供でき、独自の価値を発揮できる。（販売者にとっても事前に出店を周知できるためメリットがあるのでは）</li> <li>観光スポットやサイクリングコースを紹介する新たなマップもつくりたい</li> </ul>	

# 活動スケジュール（案）

次年度のラボ活動は、オリジナルマップの情報を追加・更新し続けられるよう運用体制を定め、新メンバーに加わってもらいながらマップの発信やブラッシュアップ、新たなマップ作成を進める見通し。

実施事項・担当	スケジュール							
実施事項	4月				5月			
	1w	8w	15w	29w	6w	13w	20w	27w
①25年度活動の全体設計		どこかで打合せを実施し、 課題の詳細化・優先順位づけを行う						
②新たなメンバーの募集				次年度事業開始のタイミングで 新メンバーの募集を実施				
③オリジナルマップの運用体制の検討			オリジナルマップの運用スリム化に向け て必要な仕組み・協力者を洗い出す			外部への協力依頼や マップの仕組みづくりを進める		
④オリジナルマップの発信						マップの発信に向けて必要な広報施策 の洗い出し・優先順位づけを行う		
⑤オリジナルマップのブラッシュアップ								①～④の見 通しがつき次 第、随時着手
⑥新たなマップの作成								

# 今後のラボの推進体制

- 次年度のラボ活動は、今年度からの継続メンバーに加えて、今回の発表で関心をもっていただいた方にもぜひ参加していただきたいと考えています。
- 情報発信に関する経験や名取市内の知識がなくても、“名取をもっといろいろな人に知ってもらいたい”、“ラボを通じて名取のもっと深い情報を知りたい”とおもう方ならどなたでも参加OKです！
- 関心をもっていただいた方は、ぜひ名取市DX推進室までご連絡ください。皆様のご参加、お待ちしております！
- また、ラボメンバーとしての参加意向に関わらず、ぜひ“なとりみち”を試しにつかってみて、感想や意見をいただけるととてもありがたいです。

# 質疑応答

会場にいらっしゃる方は挙手してください。  
オンラインで参加されている方は、  
チャットにて質問してください。



# Cチームの発表

なとり共創ラボ  
Cチーム

送迎をHAPPYに！

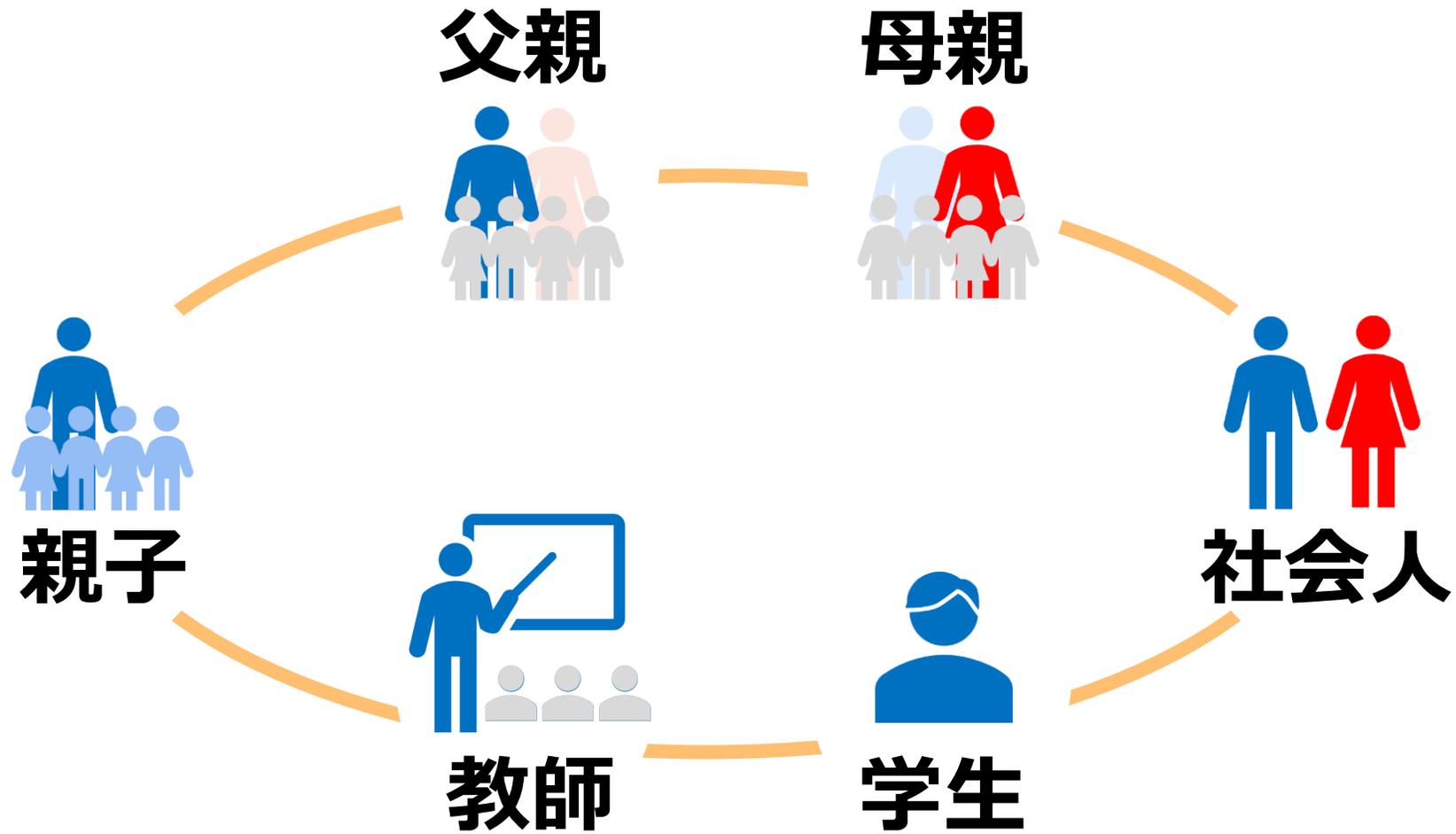
～送迎から始まる

Well-beingな社会の実現～

# もくじ

1. Cチームの紹介
2. Cチームが着目した課題感
3. 選定した取組みテーマ
4. 取組結果
5. 結果を踏まえた考察
6. 解決方針と今後のビジョン

# チーム紹介



# チーム紹介

父親

母親

ダイバーシティ  
(多様性)

教師

学生

# チーム紹介



# Cチームが着目した課題感



バスがどこに行くかわかりにくい

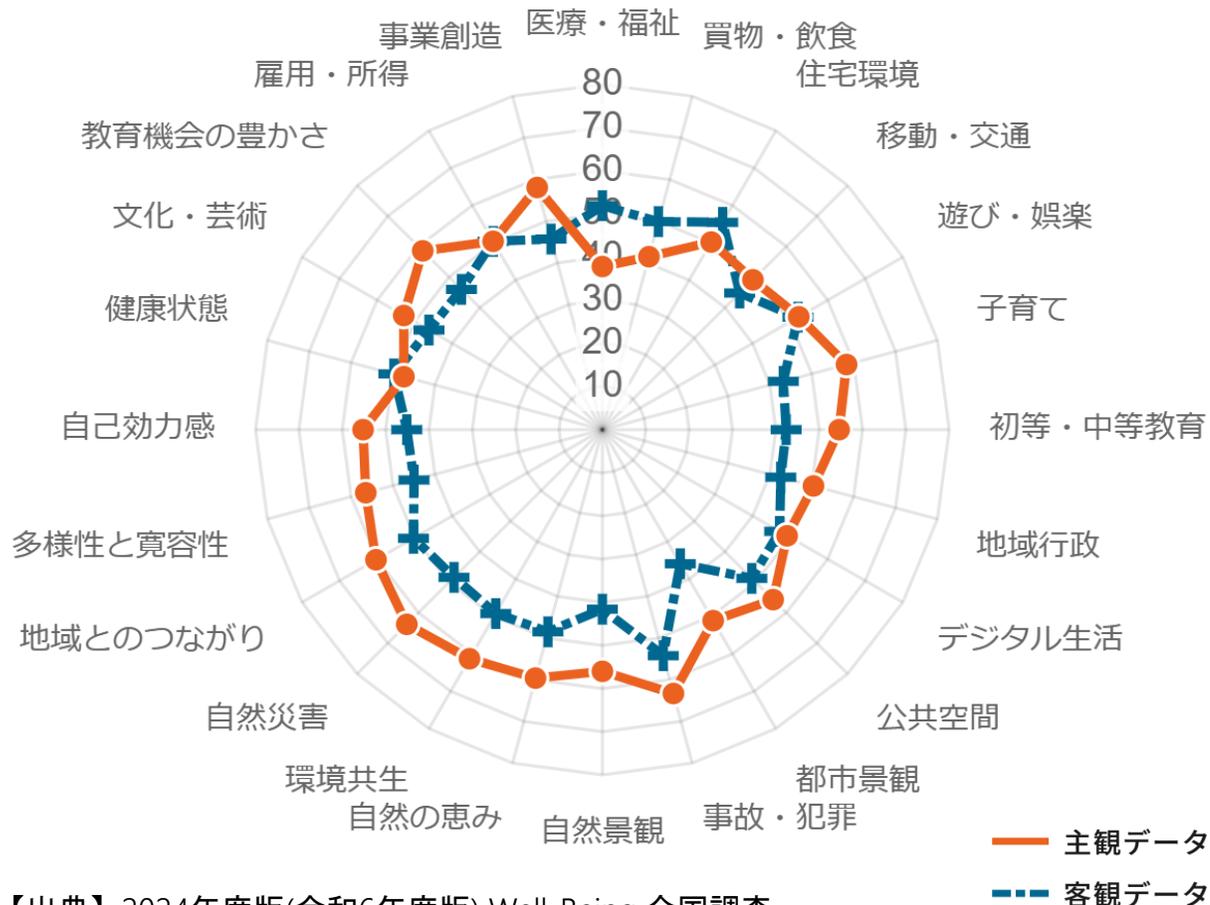
小さい子どもが公共交通機関を利用できない



移動・交通を課題と感じていた

# データで見ると、どうなの？

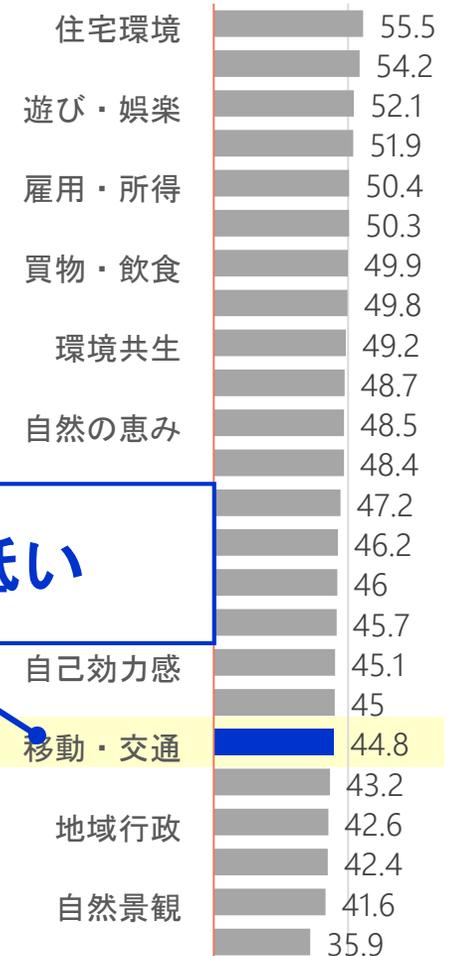
【名取市「Well-Being全国調査」結果】



【主観データの棒グラフ】



【客観データの棒グラフ】



満足度は低い

【出典】2024年度版(令和6年度版) Well-Being 全国調査

# バスへの不満は問題なのか？

## 【 想定された仮設 】

子どもの送迎が発生→親の送迎負担が大きい

送迎に対する問題把握のため、調査実施！！

## 【 仮説を立てるまでの打ち合わせ模様 】

### 活動前期（11月頃）

- バスがどこに行くかわかりにくい。慣れない場所に行くときに、どのバスに乗ればよいかわからなかった。
- 小さい子どもが公共交通機関を利用できない
- 観光客や市外の受験生など、名取市に訪れる頻度が少ない人は、どのバスに乗ればよいか分からないので利用しにくい。
- 高齢者や子どもなどスマホを使えない人は、どのバスに乗れば目的地にたどり着くのか分からず、利用をためらう。
- 往路と復路でのバス停の乗り場が異なる場合に、特に復路で乗るバスはちゃんと帰るのか不安になる(往路と復路で必ずしも同一バス停から乗るとは限らない)。

### 活動中期（12月頃）

- 子育て世代にとっては**子どもの送迎が負担になっている**。例えば、塾の送迎、朝の忙しい時間帯に子どもを保育園に連れていくなど、**親の送迎負担が大きい**。特に、**親が忙しい時は子どもが自分で帰ってこれるようになる**と助かるのではないかと。
- 雪が積もる時期なので、子どもに通学でバス利用を提案したところ、「バスに乗るのが恥ずかしいから嫌だ」という理由でバス利用はしないことになった。
  - 大人の中に子どもがひとり混ざっていること、または同級生の中でバス通学の人が少ないので、恥ずかしいと感じるのかもしれない。
  - そもそも、バスの乗り方・降り方が分からない子どもは、失敗が不安に感じて乗りたがらないのではないかと。

### 活動後期（1月頃）

- 親の送迎負担は子育て世代の悩みであるため、論点としては違和感ない。ただし、移動手段はバスに限定しない。
- そもそも、送迎・移動が負担と感じている人感じていない人、送迎・移動を親子のコミュニケーションとして大事な時間と思っている人など、色んな人がいる。
- 親子の立場によって送迎・移動に対する思いが違うのではないかと。それぞれ、いまの実態・本当はこうなってほしいという希望を聞いて、そのギャップをみると、送迎・移動に関する問題が見えてくるのではないかと。
  - **送迎の問題を特定するために、子育て世代と子どもに対してアンケート調査を実施！！**

# 問題の分析(アンケート調査)

実施期間: 2025年1月31日～2025年2月7日

## 対象者: 回収件数

市内の中高校生: 897件

上記の保護者: 554件

合計: 1451件

## アンケート概要

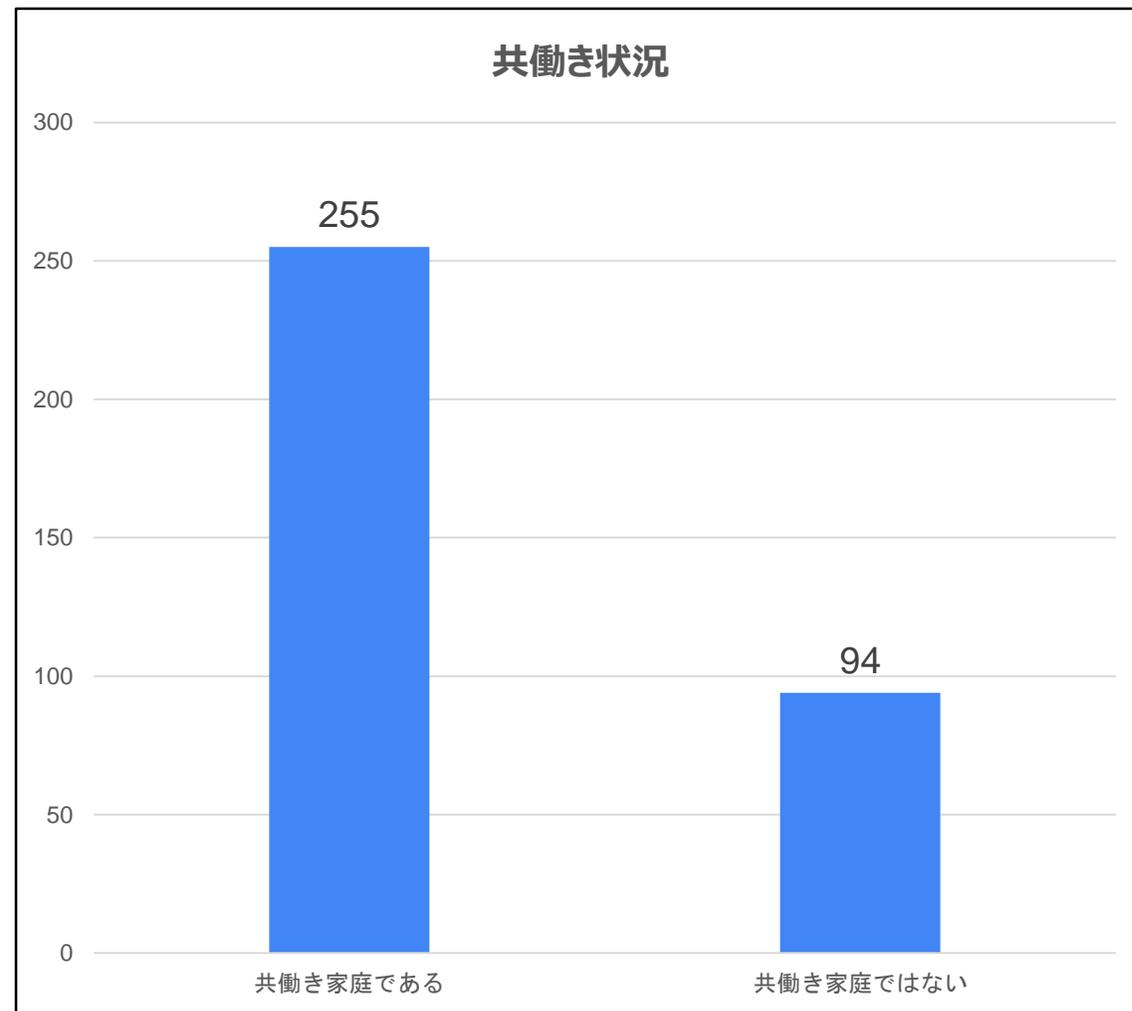
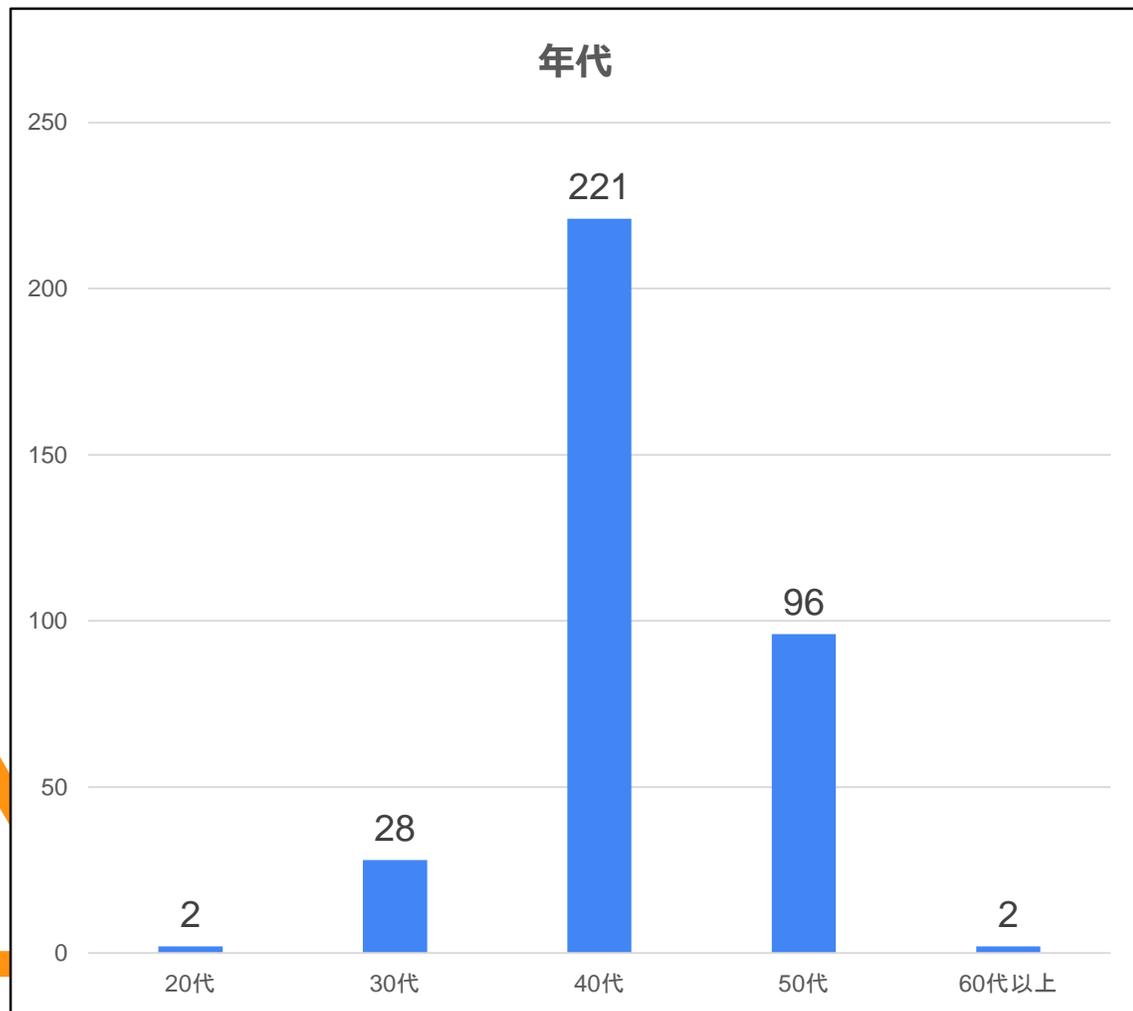
回答者の属性について  
送迎に関する実態

送迎に関する希望・要望

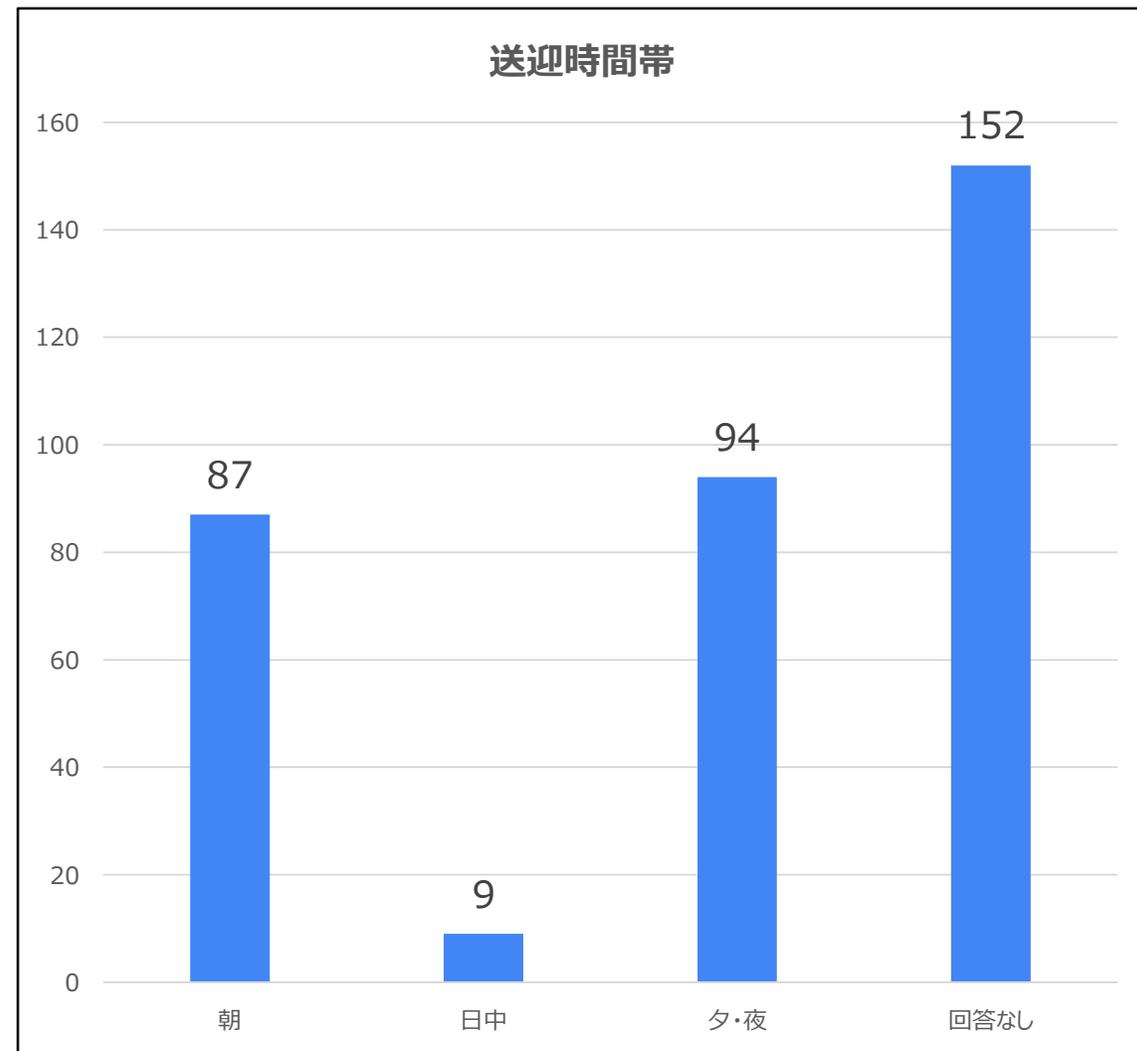
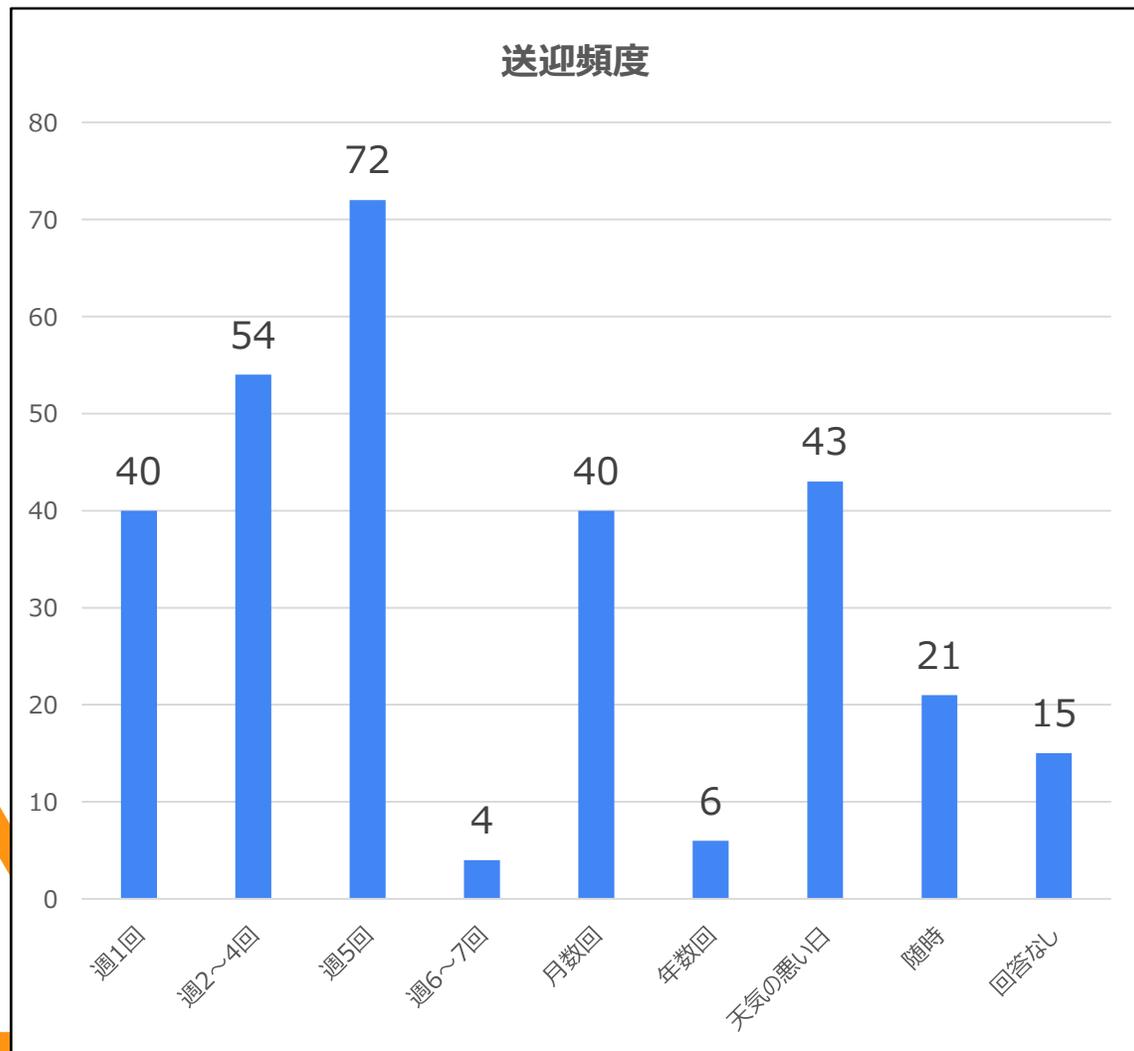
送迎に対する価値観

# 回答者の属性(保護者)

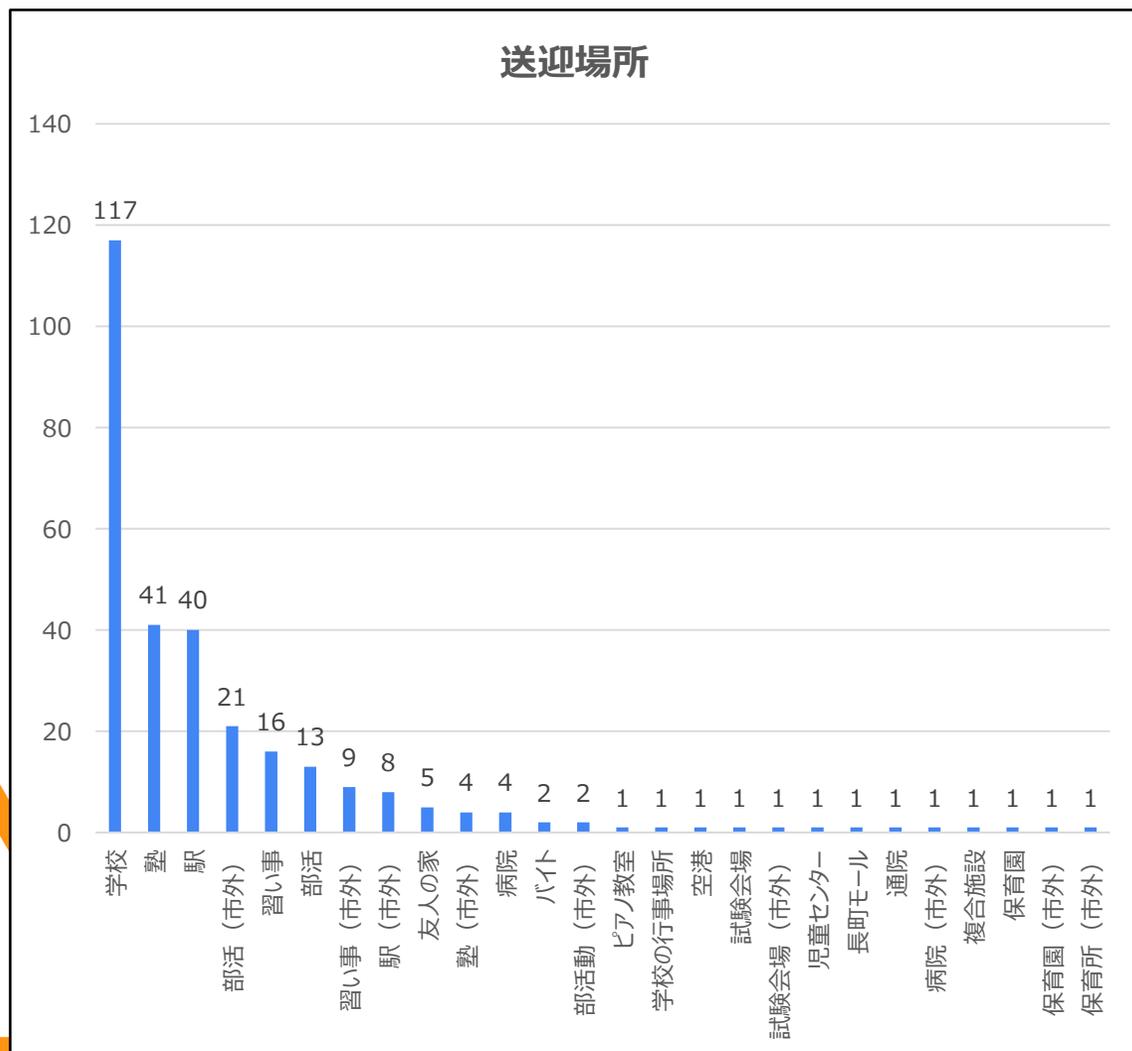
性別 男性:25人 女性:320人 無回答:4人



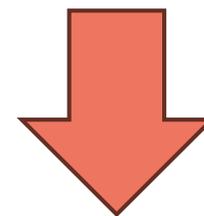
# 送迎の頻度と時間帯（保護者）



# 送迎先はどこか（保護者）

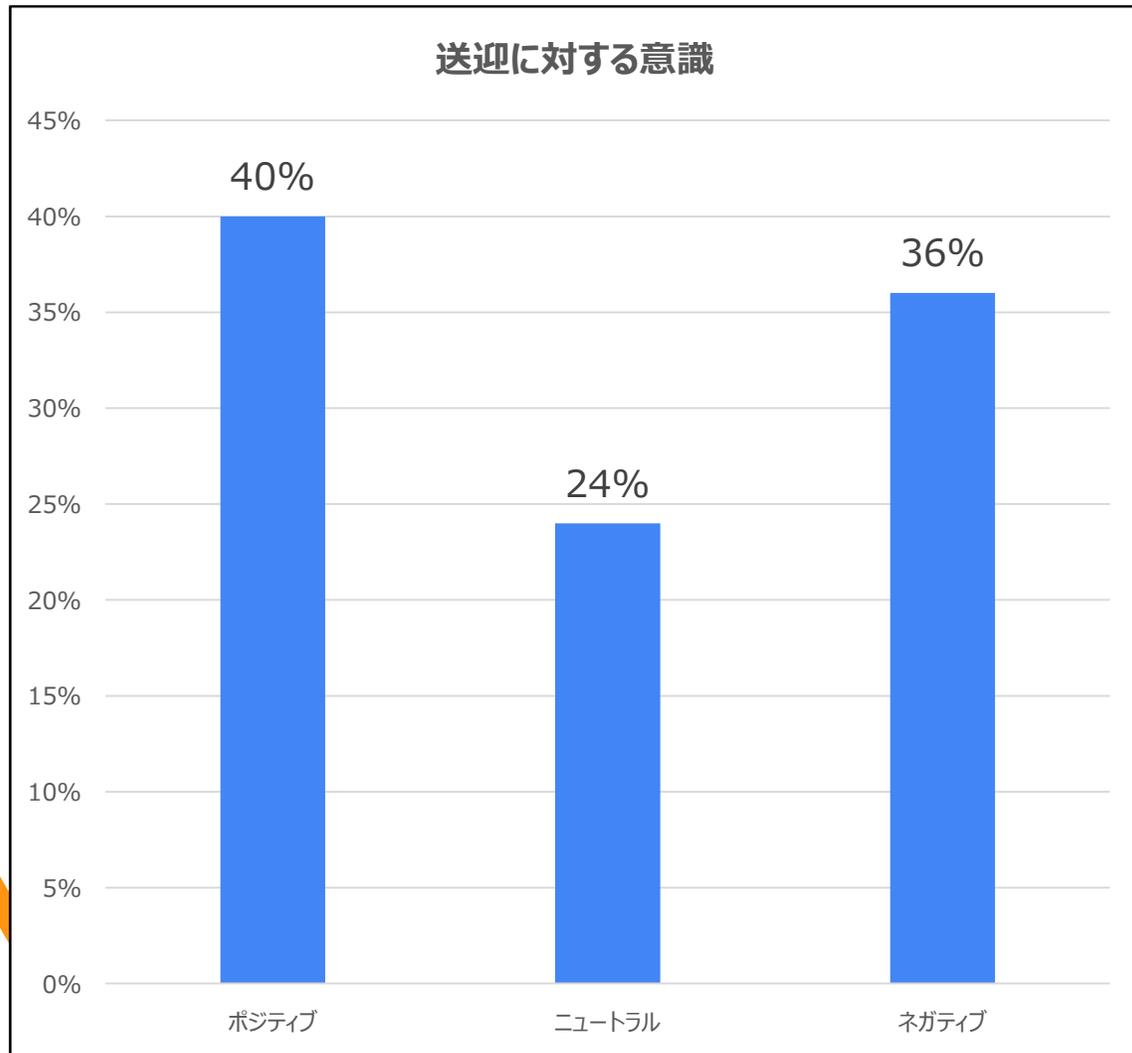


主な送迎先  
学校  
塾・習い事  
部活動



中高生の活動先が主となっている

# 送迎に対する価値観(保護者)



※「送迎に対する意識」は、「送迎時間をひとことで」という設問に対する回答を以下のとおり分類。

ポジティブ: 親子のコミュニケーション、大切な時間、楽しいなど前向きに回答した方を集計

ニュートラル: 当たり前、日常、何とも思わないなど、良くも悪くもないと回答した方を集計

ネガティブ: 疲れる、大変、面倒など後ろ向きに回答した方を集計

## ポジティブ

唯一ひとり(自由)になれる時間

音楽・テレビ・ラジオを楽しむ時間

子供と会話する時間

## ネガティブ

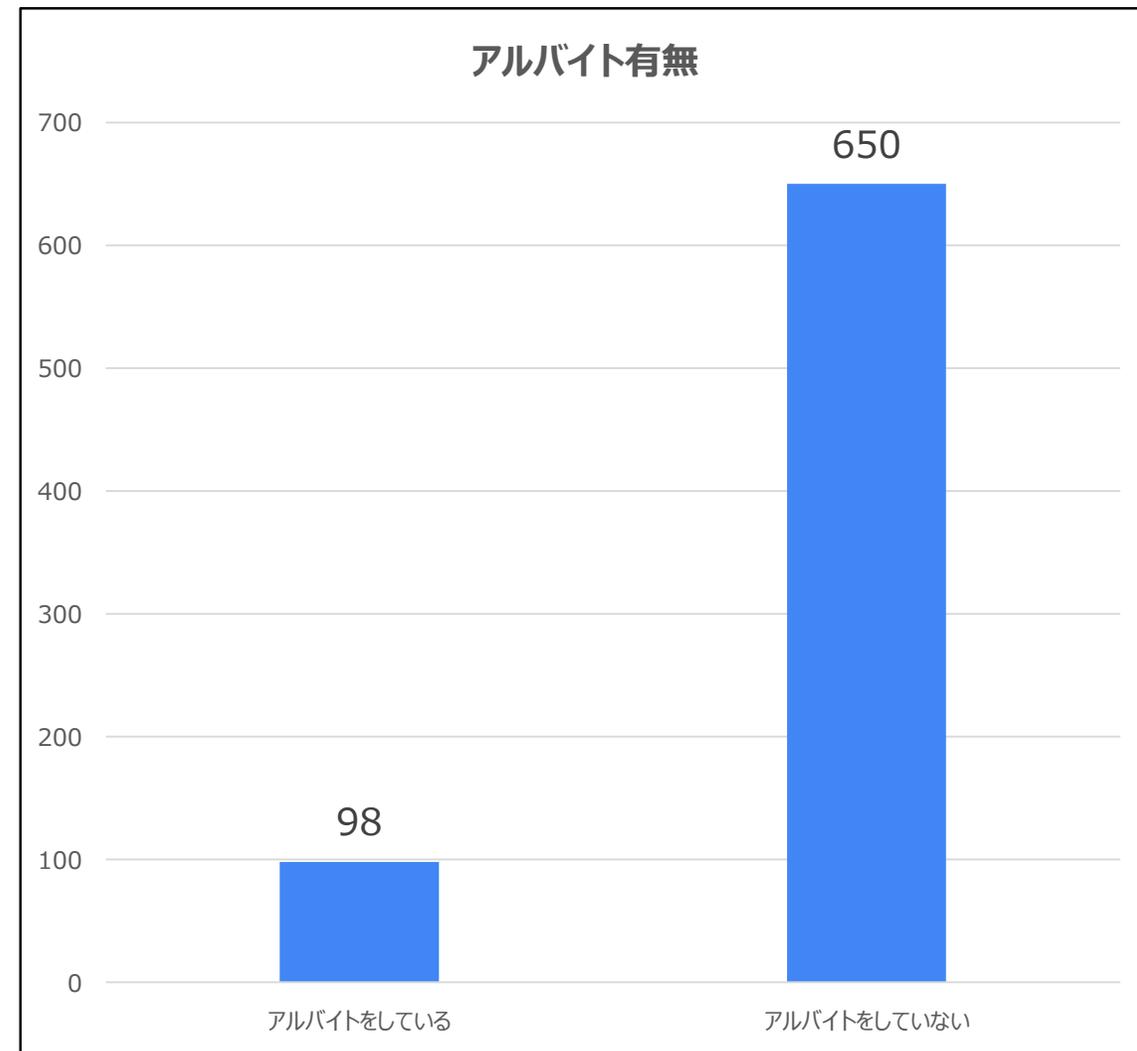
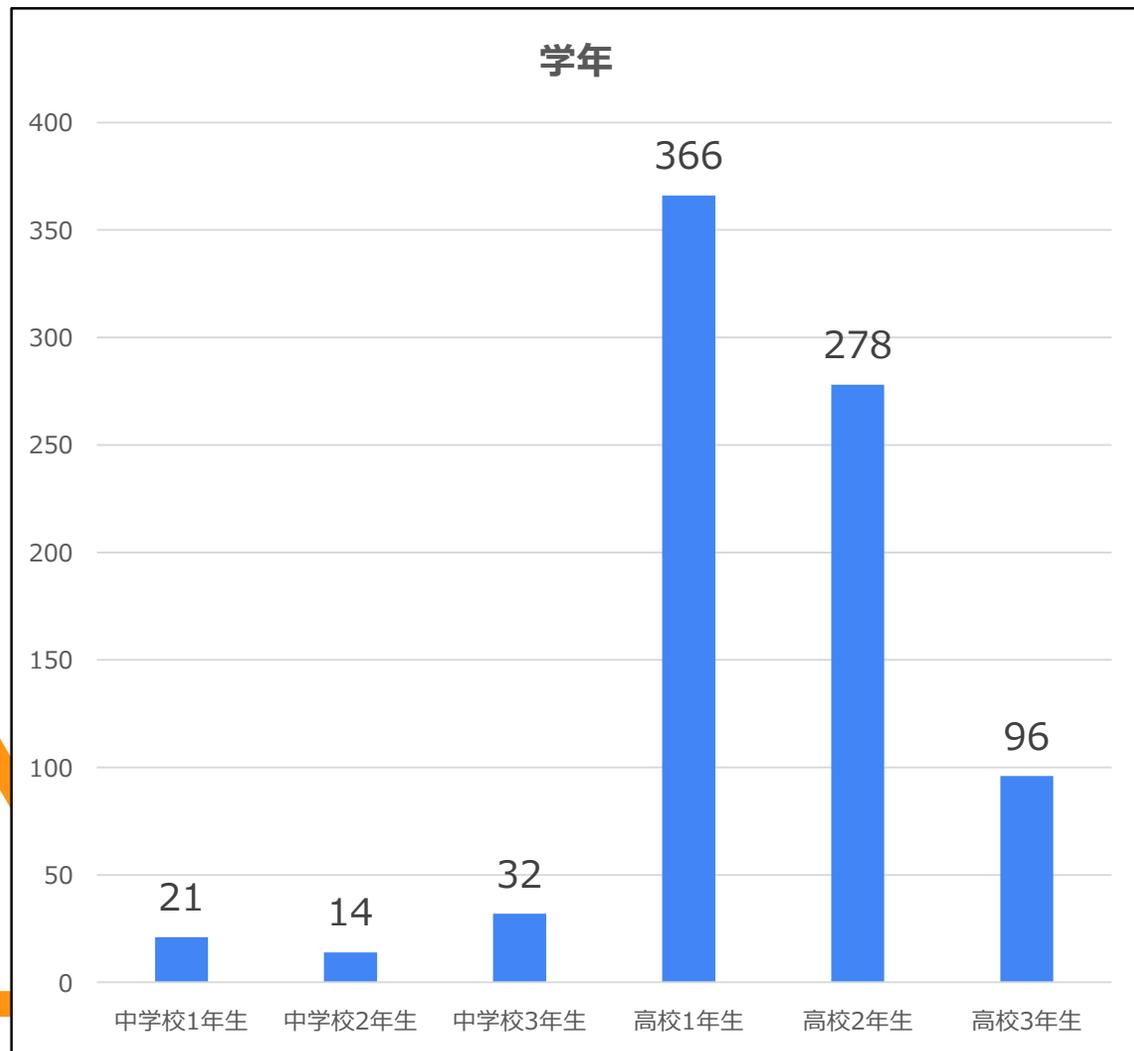
神経を使う・疲れる時間

面倒・無駄な時間

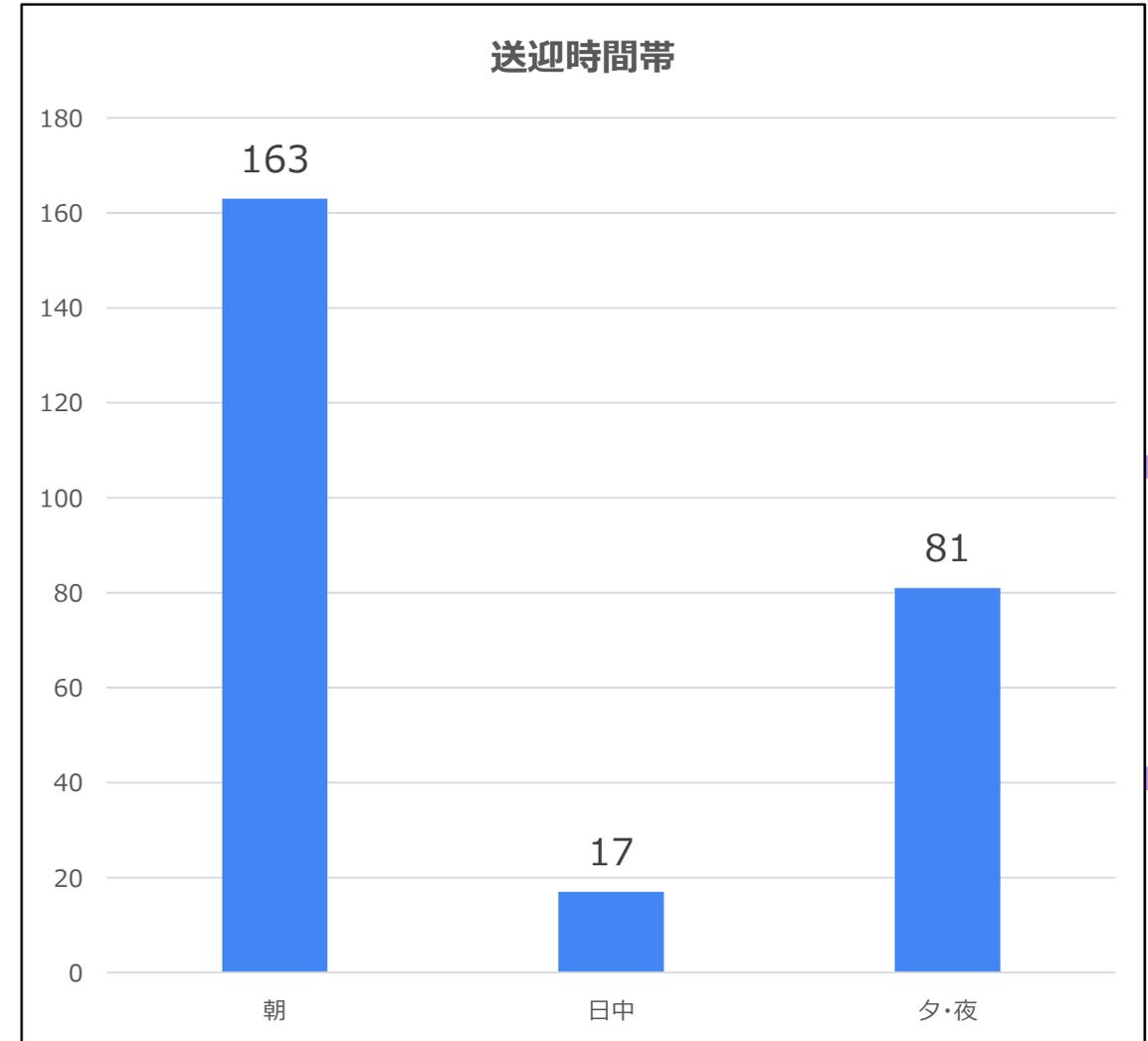
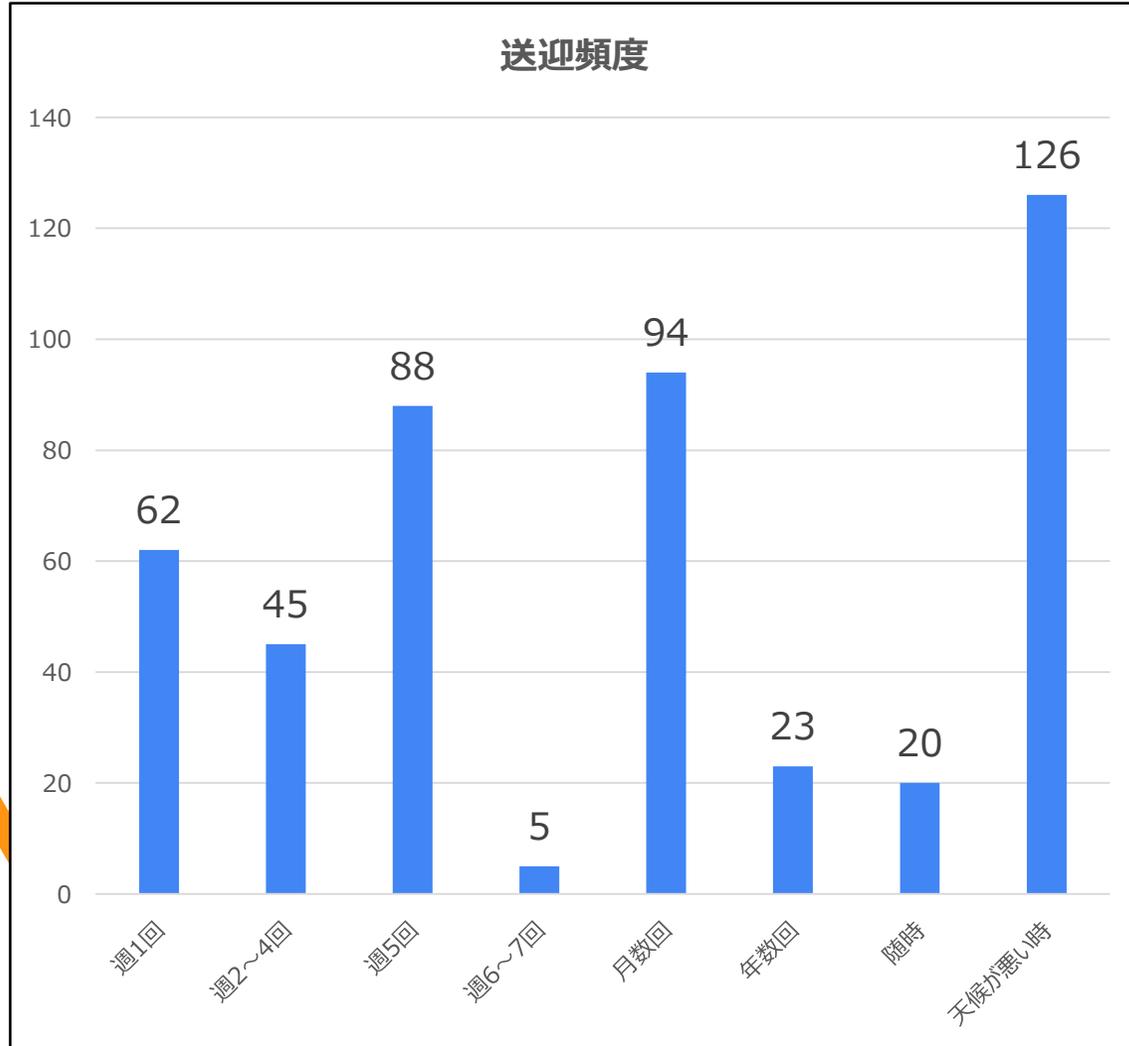
しょうがない・諦めの時間

# 回答者の属性(中高生)

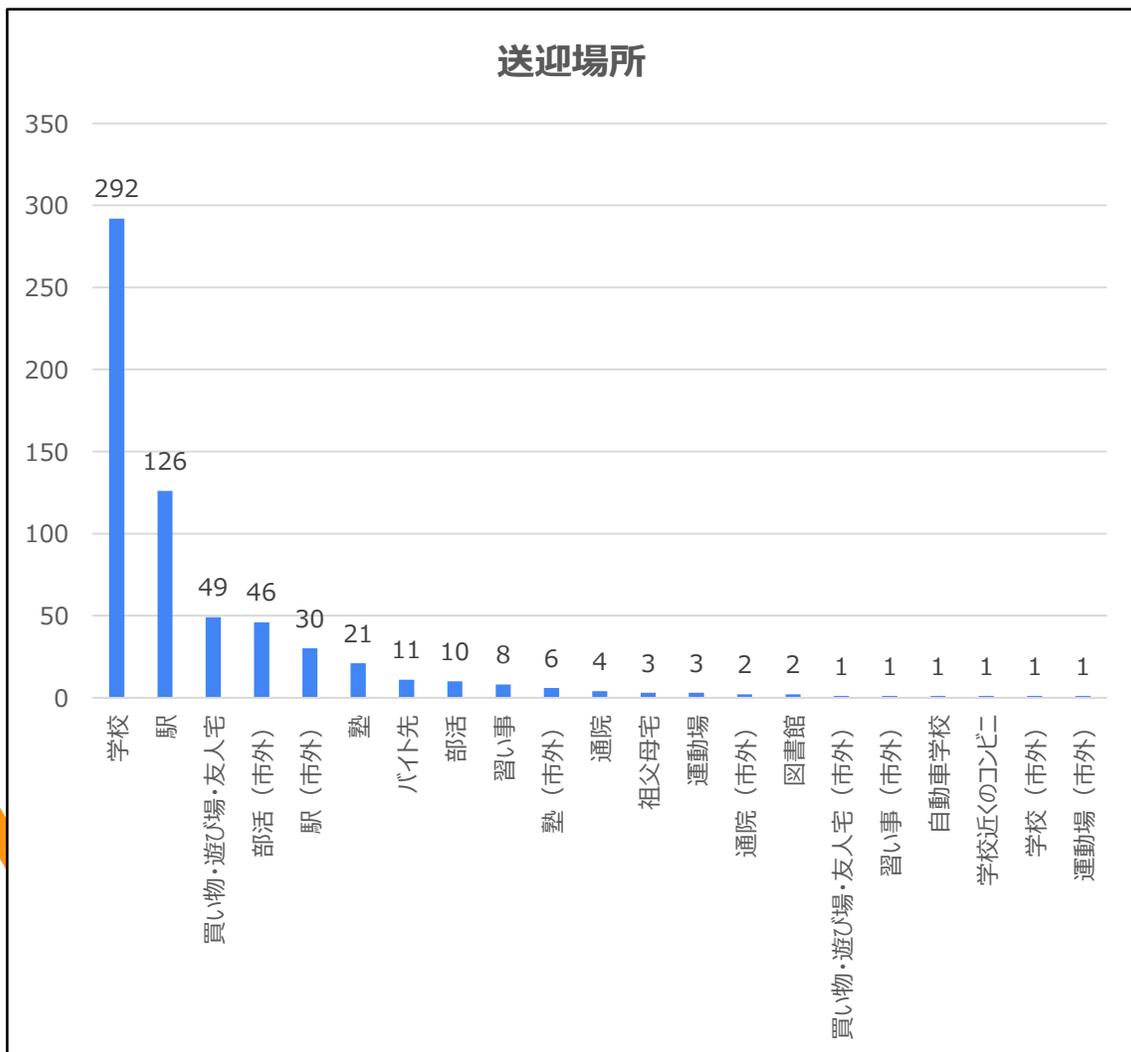
性別 男性:400人 女性:392人 無回答:15人



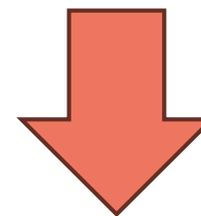
# 送迎してもらおう頻度と時間帯（中高生）



# どこに送迎してもらうか(中高生)

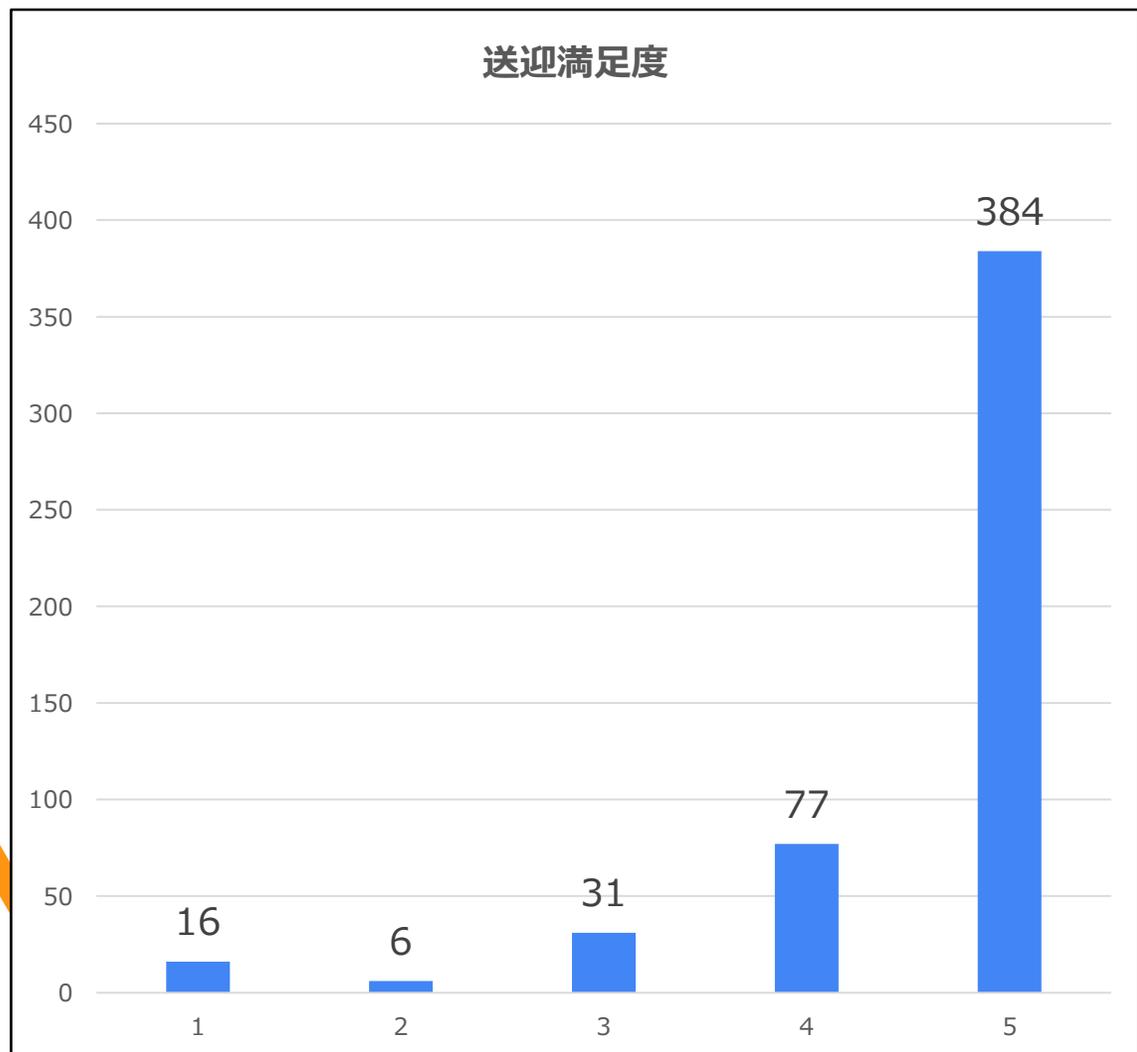


主な送迎先  
学校・部活  
駅・遊び場・友人宅



通学・部活動・友人との付き合い  
が主な用途

# 送迎に対する満足度(中高生)



## 満足度が高い理由

快適・安全性が高いこと  
送迎してもらえることが  
ありがたい・感謝している

## 送迎に対する価値観

安心する・幸せな時間

親との会話の時間

ありがたみを感じる

# アンケート結果を踏まえた考察

- 送迎という行為を「親としての当然の行為」と捉えていながらも解放感や負担感など様々なことを感じている。
- 学生側は送ってもらえることに慣れ、当然のことのように感じている反面、親への負担についても理解しており感謝の気持ちを持っている。
- 送迎の時間を「親と子のコミュニケーションの時間」として捉えているのは、車という狭い空間に入ることによって距離感が近くなり会話が生まれやすいからではないかと考えられる。

# アンケート結果のまとめと送迎に関する課題

## 保護者

- 送迎することが負荷となっている
- 送迎の時間をポジティブに捉える人もいればネガティブに捉える人もいる

## 中高生

- 送迎してもらえることを当たり前と思っている
- 一方、送迎してもらえることに対して申し訳なさ感謝の気持ちを持っている

- 送迎に対して負担感が大きいと感じている「子育て世代」の負担を軽減することが優先
- 送迎の問題は、家庭に起因するもの、仕事に起因するものなど、個々人によって様々であり、肉体的・精神的な負担の問題を根本から取り除くことは不可能。
- ただし、送迎に対してポジティブな思いをもつ人を増やすことで、送迎に対する心理的な負担感を軽減することができるのではないか。

取組課題

子育て世代の心理的負担感を軽減すること

# 解決策の方向性

## 方向性①

**送迎をポジティブに捉える人を増やす！！！！**

⇒現状ポジティブな人はさらにポジティブへ。ネガティブな人はポジティブへ。

## 方向性②

**子どもが親に送迎に対する感謝の気持ちを伝える！！！！**

⇒子どもは感謝の気持ちをもっているが、なかなか親に伝えられない。また、親は子どもが感謝の気持ちをもっていることを知らない。すれ違う想いを紡いで両思いにできたら感無量。

## 方向性③

**感謝からはじまる幸せの好循環サイクル構築！！！！（名取市の幸福度向上）**

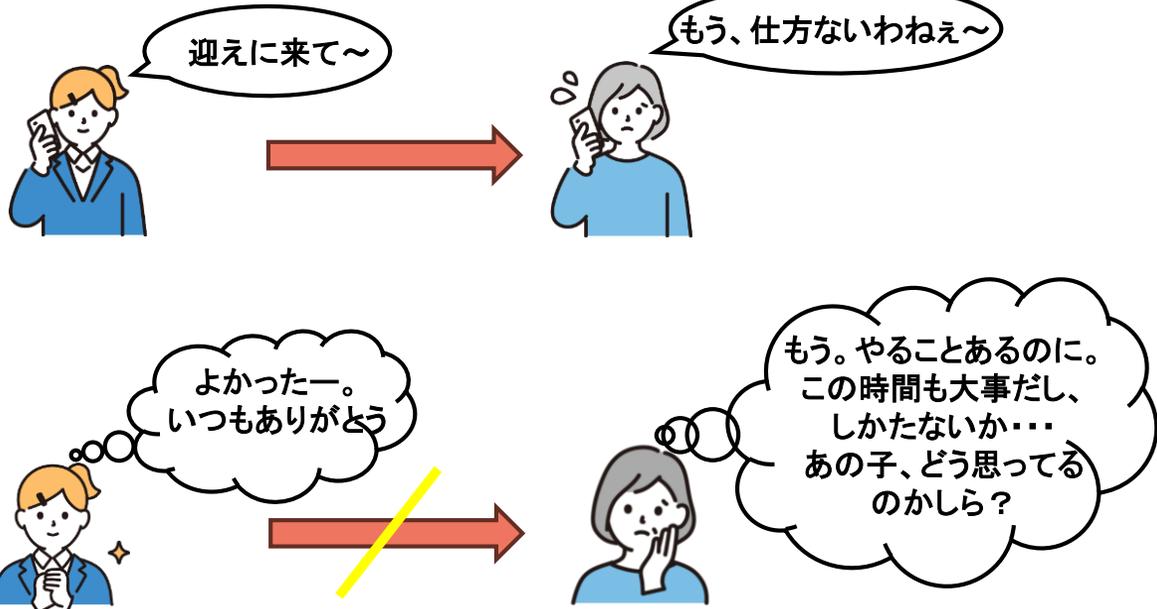
⇒感謝の気持ちを伝える、伝えてもらうことで、幸せの好循環づくりを。送迎をネガティブなものではなく、HAPPYに変える取組を。名取市で幸せに感じる人を増やすことを目標に掲げる。

# ビジョンの可視化

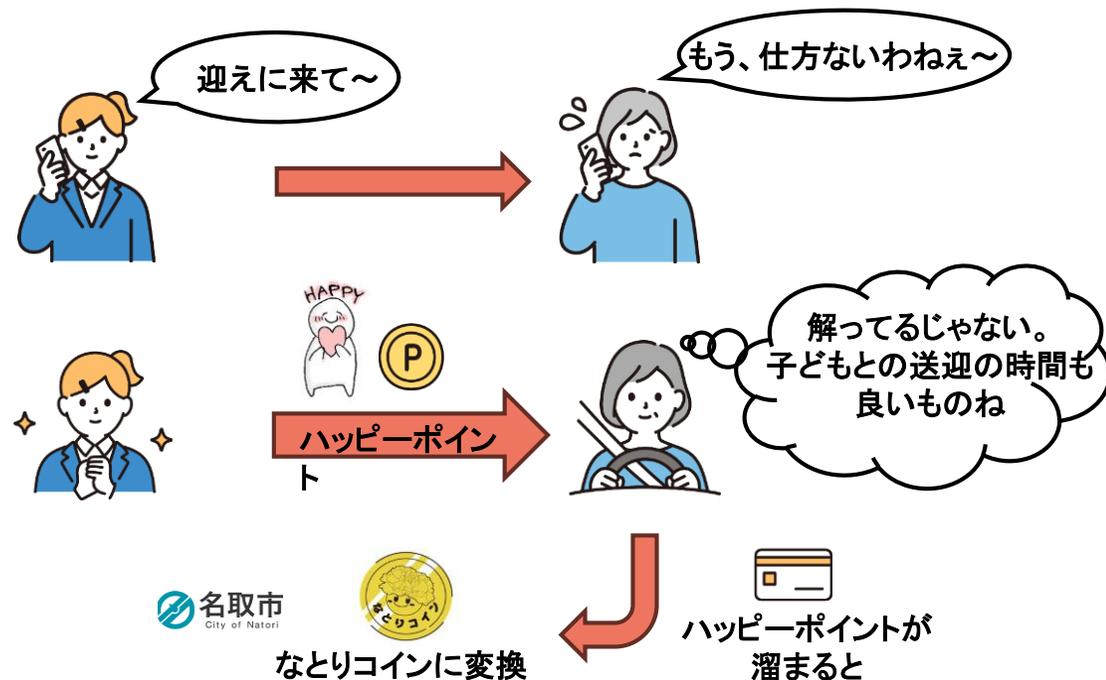
感謝を可視化し、感謝することが自分の幸せにも繋がる。日々の「面倒」が「感謝」に変わり、親子や家族のコミュニケーションツールとして大活躍！「ハッピーポイント」の実現

## 【活用例】

Before  
(現在のコミュニケーション)



After  
(未来のコミュニケーション)



# 今後の展望に向けた類似事例

## ■自治体事例

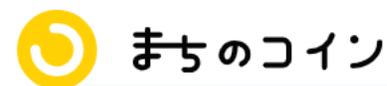


各校区で決定した対象のボランティア活動などに参加するとポイントが受け取れます。

＜対象活動の例＞

- ・役員等への就任（自治協議会、町内会等の役員、子ども会など各団体当の役員等）
- ・校区行事等の企画や運営（まつり・運動会等の実行委員会、子育てサロン等の企画・準備等）
- ・活動への参加（防犯パトロール、見守り活動、清掃活動、地域の花壇の手入れ等）

## ■民間事例



体験の詳細  
大船駅に感謝を込めて39クルッポを贈ることが出来ます！

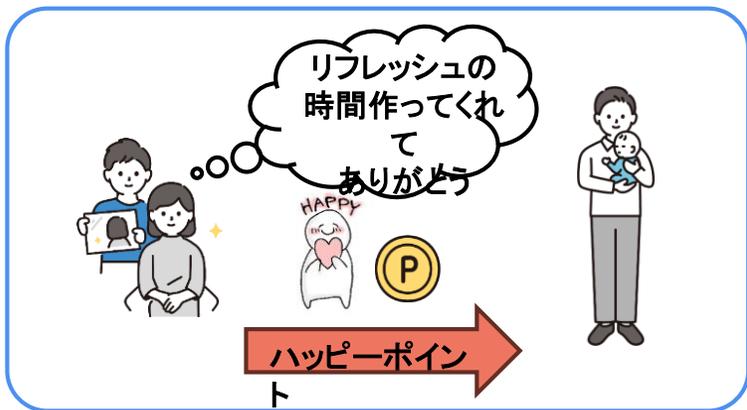
限定数  
1日に1人10件まで

# ハッピーポイントの今後の展望 (案)

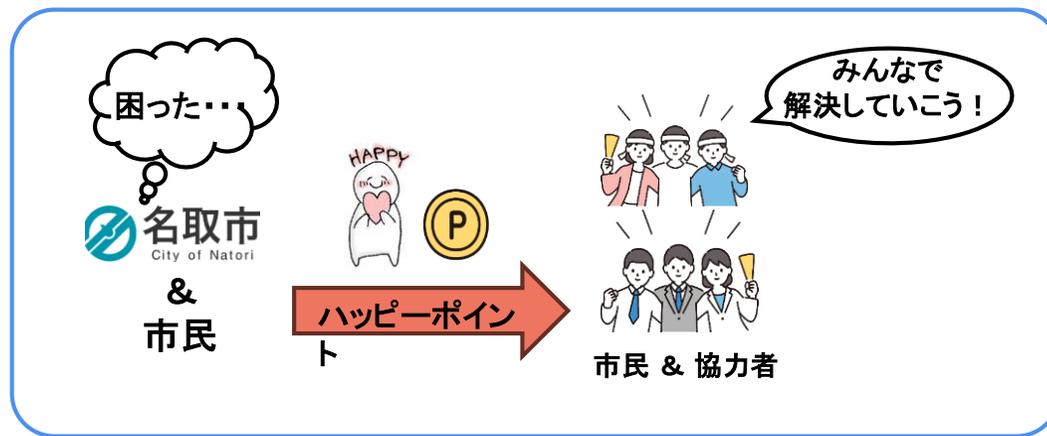
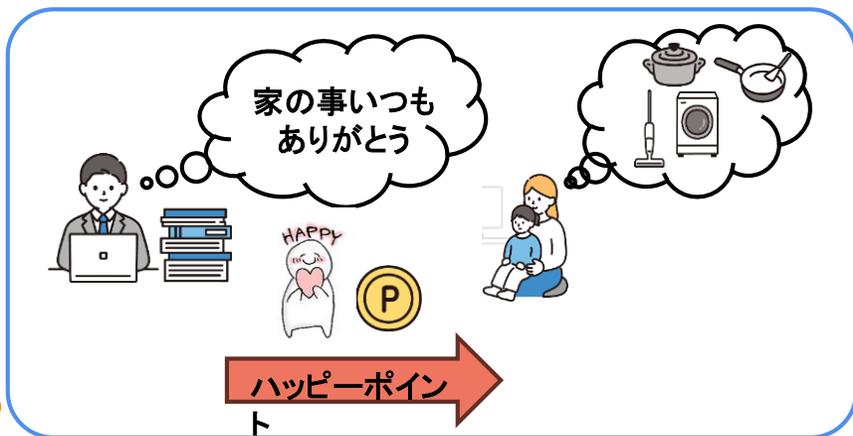
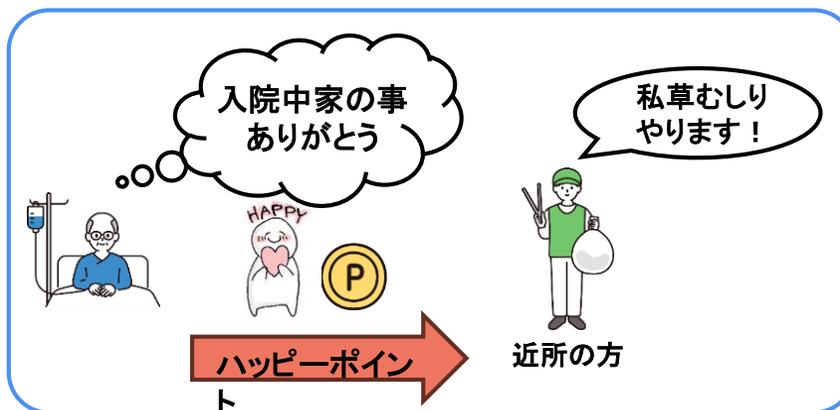
夫「休みの日ぐらいゆつくりさせてよ～仕事で疲れてんだよねえ」妻「はあ？私も仕事してるし！少しぐらい手伝ったら？」

夫「皿もあらったし洗濯もしたじゃん！」妻「はあ？家事舐めんな！」を**感謝**で解決する「ハッピーポイント」

【夫婦・家族間】



【市民間】



# 自走化に向けて（案）

なとりポイントに変換できる仕組みとして、アプリの開発やポイントの管理方法などの検討が必要。  
また予算元として、広告等スポンサーによる収益元が必要。

感謝の連鎖によって生まれる「幸せ」の連鎖を醸成していくビジョン実現に向けて、  
次年度以降は、この仕組みの実現に向け

「収益性」……………なとりコインの原資と運用経費をどう賄うか

「システム」……………どうやってこのシステムを作れるのか

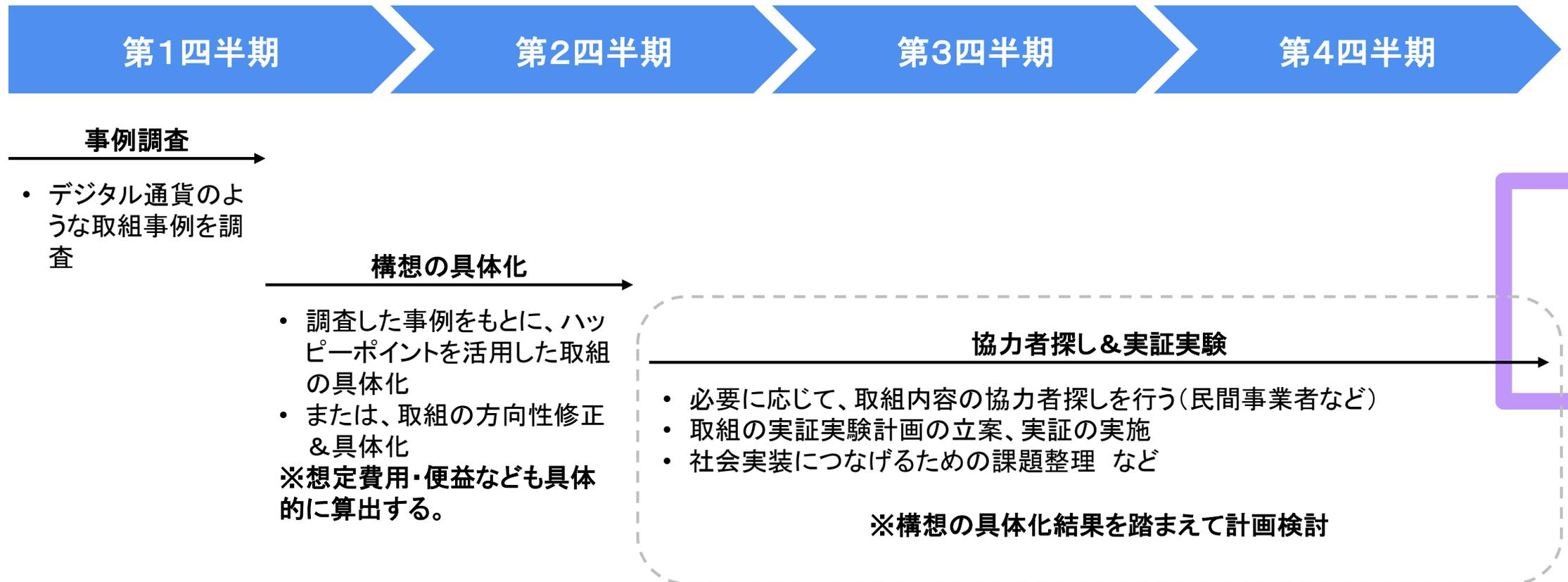
「管理体制」……………誰が、どう運用していくのか

「利用率」……………どうやって利用率を上げていくのか

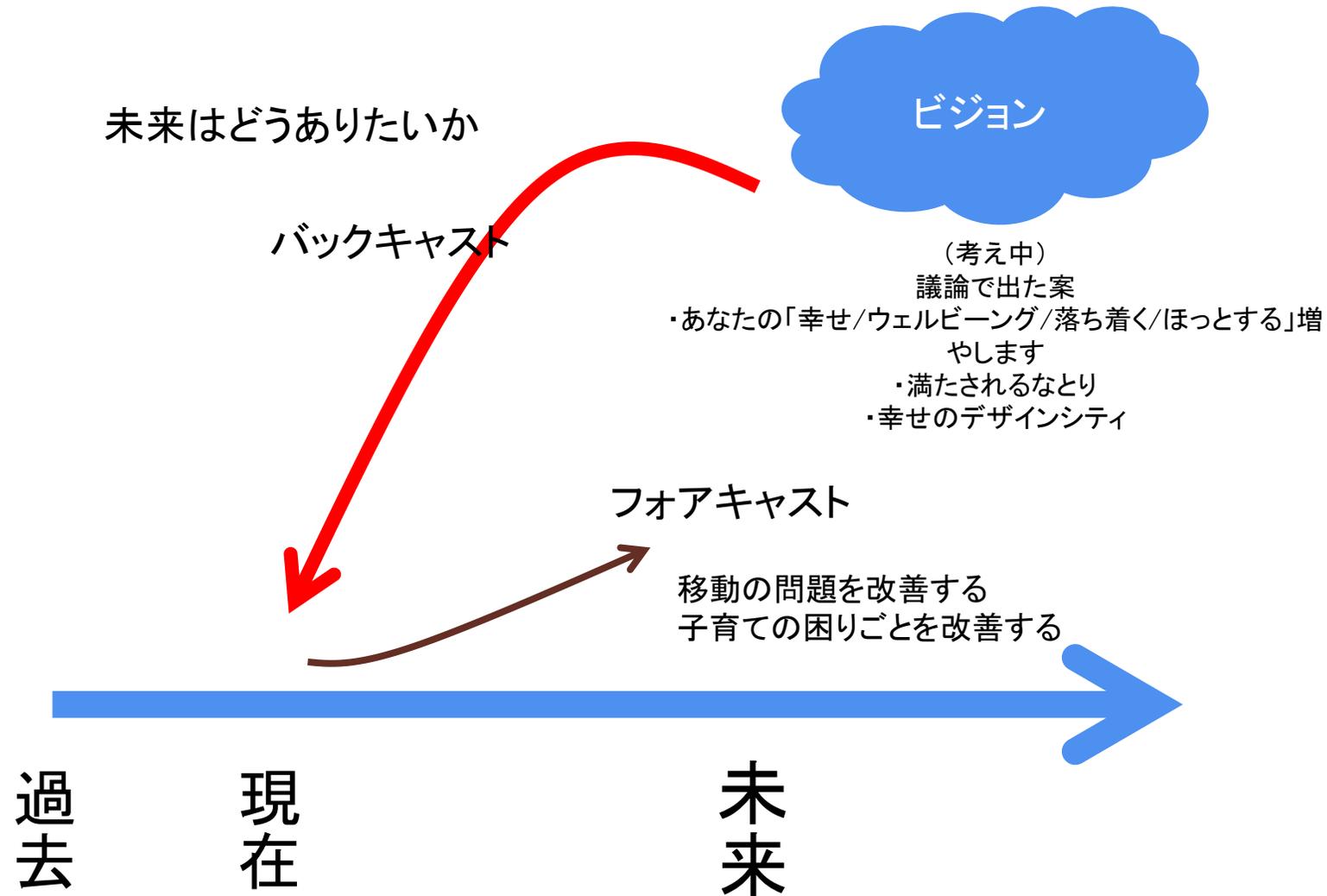
等、実現可能性をどうすれば高められるのかを検討していきたいと思えます。

# 今後の活動方針とスケジュール感（案）

- ハッピーポイントをベースとした取組の具体化を図るべく、まずは類似事例の調査を行う見通しです。
- 調査結果を踏まえて、取組案の具体化と今後の進め方を再度検討します。

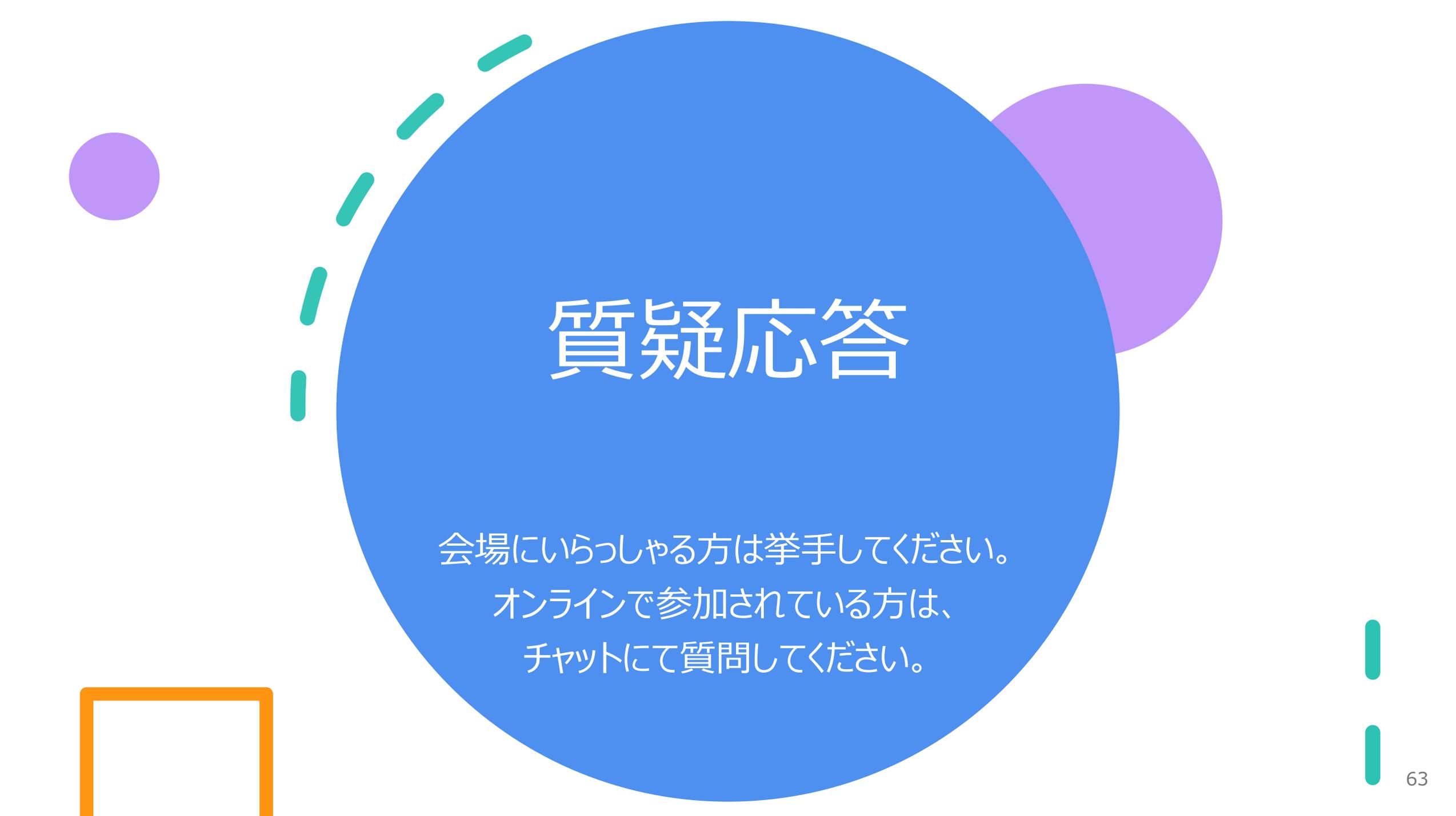


# (参考) 今後の活動の議論方法



# 今後のラボの推進体制

- 次年度のラボ活動は、今年度からの継続メンバーに加えて、今回の発表で関心をもっていただいた方にもぜひ参加していただきたいと考えています。
- Cチームは、議論が大好きな人たちの集まりです！納得できるまで議論したい、追求したい、という方はぜひ名取市DX推進室までご連絡ください。
- もちろん、送迎だけではなく、交通・子育てを別の視点から取組みたいという方も参加OKです。ぜひ、交通・子育てに関する様々なテーマを考えましょう。



# 質疑応答

会場にいらっしゃる方は挙手してください。  
オンラインで参加されている方は、  
チャットにて質問してください。



# 市長からのコメント



事務連絡・  
閉会あいさつ

# 連絡先

次年度の事業にご関心のある方は、必要事項を記載のうえで、以下の連絡先までメールをください！

## ▼必要事項

- 件名: 令和7年度なとり共創ラボへの参加について
- お名前
- 所属(学校名や会社名、その他所属団体名) ※特になければ記載不要です
- 関心のあるラボ活動(チームA~Cあるいはその他)

## ▼連絡先

名取市 企画部 DX推進室  
担当 今野

[konno-ma066@city.natori.miyagi.jp](mailto:konno-ma066@city.natori.miyagi.jp)